

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ①平常展							
【年度計画】								
①平常展 (4館共通)								
1) 平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。 (東京国立博物館)								
1) 「日本美術の流れ」を中心とする本館の日本美術、平成館の日本考古、東洋館の東洋美術、黒田記念館の近代洋画など、各種展示の更なる充実を図る。								
2) 特集 テーマ性を持った展示を各種実施し、調査研究成果を公開するとともに、平常展の更なる充実を図る。								
・上野動物園・国立科学博物館との連携企画「親と子のギャラリー トーハクでバードウォッチング キジやクジャク、鳳凰が勢ぞろいー」(4月25日～6月4日)								
・「平成28年度新収品展」(6月27日～7月17日)								
・「親と子のギャラリー びょうぶとあそぶ」(7月4日～9月3日)								
・「チベットの仏教と密教の世界」(9月5日～10月15日)								
・「キリシタンの美術」(12月5日～12月25日)								
・正月恒例の「博物館に初もうで」(30年1月2日～1月28日)								
・「東京国立博物館コレクションの保存と修理」(30年3月13日～4月8日) 等								
3) 文化庁関係企画 「平成29年 新指定 国宝・重要文化財」(4月18日～5月7日) にて、29年新たに国宝・重要文化財に指定される文化財を展示する。								
担当部課	学芸研究部列品管理課			事業責任者	課長 救仁郷秀明			
【実績・成果】 (4館共通)								
1) 平常展来館者数は1,030,180人、展示替件数は6,616件と、目標値を上回った。 (東京国立博物館)								
1) 定期的な展示替を実施し、6,616件の展示替を行った。展示総件数は10,223件であった。								
2) 28件の特集を実施した。								
3) 「平成29年 新指定 国宝・重要文化財」を実施し、新指定の重要文化財となった彫刻の一部を、本館11室においても展示した。								
【補足事項】								
【定量的評価】項目								
29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28	
平常展の来館者数	1,030,180人	512,186人	S	484,429	587,528	747,944	761,709	
平常展の展示替件数	6,616件	6,009件	B	5,708	5,506	6,930	8,538	
平常展の展示総件数	10,223件	-	-	8,824	8,161	8,911	10,918	
【年度計画に対する総合評価】 評定：A		【判定根拠、課題と対応】 目標値 512,186 人に対し 1,030,180 人と、予想より数年早く 100 万人超を達成したことは、日本全体の海外からの渡航者増加を考慮しても評価できる。 各種企画・特集展示が連続して開催されていることが、リピーター及び新規来館者の獲得につながっている。 平常展の来館者人数は、特別展の来館者数増加に影響され、想定することが難しいが、29 年度については「茶の湯」、特別展「運慶」、特別展「仁和寺と御室派のみほとけ」等の来館者数が伸びたことによる相乗効果がみられる。						
【中期計画記載事項】 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。 なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。								
【中期計画に対する評価】 評定：A		【判定根拠、課題と対応】 最新の研究成果に基づいた、展示に関わる情報提供の充実・拡大を図っている。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ①平常展							
【年度計画】 (4館共通) 1) 平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。 (京都国立博物館) 1) 明治古都館改修に伴い、平常展示館として計画された平成知新館において特別展覧会も開催するための平常展展示計画を策定し、平常展を行う。 2) 平成知新館において、部門を超えた特別企画、特集展示を行う。 特別企画 ・貝塚廣海家コレクション受贈記念「豪商の蔵―美しい暮らしの遺産―」(30年2月3日～3月18日) 特集展示 ・「名刀聚英―永藤一の愛刀―」(6月13日～7月17日) ・「古書画へのまなざし―伴實コレクション―」(6月13日～7月23日) ・大政奉還150年記念「鳥羽伏見の戦い」(7月25日～9月3日) ・京都水族館連携企画「京博すいぞくかん―どんなおさかないるのかな?」(7月25日～9月3日) ・「いぬづくし―干支を愛でる―」(12月19日～30年1月21日) ・「御所文化を受け継ぐ―近世・近代の有職研究―」(12月19日～30年1月28日) ・「雛まつりと人形」(30年2月20日～3月18日)								
担当部課	学芸部			事業責任者	企画室長 伊藤信二			
【実績・成果】 (4館共通) 1) 平常展来館者数については136,862人と目標値を上回った。展示替件数は973件であり目標値を上回った。 (京都国立博物館) 1) 特別展覧会前後の準備・撤収のため名品ギャラリー閉室期間を設けるための展示計画を策定した。 2) 年度計画に基づき、1件の特別企画、7件の特集展示を実施した。								
【補足事項】 (京都国立博物館) 2) ・「鳥羽伏見の戦い」においては12件の作品借用を行い、館蔵品・寄託品以外の京都市下に所在する文化財を来館者に紹介することができた。 ・「京博すいぞくかん―どんなおさかないるのかな?」においては、子供向けに平易なキャプションを設け、京都水族館長によるギャラリートークを実施するなど、新たな取り組みを行った。 ・「御所文化を受け継ぐ―近世・近代の有職研究―」については、館蔵品の宮廷装束及び調度の悉皆調査を行い、その成果として特集展示を行った。 ・「豪商の蔵―美しい暮らしの遺産―」については、大阪府貝塚市で江戸時代から続いている商家から26年度より29年度までで約1,000件の文化財寄贈を受入れたことに伴い行った。 ・4月11日～5月21日、6月13日～9月3日に展示した重要文化財「千手観音立像 湛慶作 京都・妙法院」(当館寄託)は30年3月9日に国宝「木造千手観音立像(蓮華王院本堂安置) 一千一軀」の一部として指定することを答申された。								
								
「御所文化を受け継ぐ」展示風景								
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
平常展の来館者数	136,862人	136,309人	B	-	-	265,719	205,526	186,162
平常展の展示替件数	973件	919件	B	-	-	693	1,145	943
平常展の展示総件数	978件	-	-	-	-	980	1,438	1,068
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 平常展来館者数及び展示替件数は目標値を上回った。28年度と比べて平常展の来館者数が少なかったのは、国宝展準備のため平常展の開館日を28年度より減らしたことや、充分な広報活動ができず、平常展への誘客が弱かったことが要因として考えられる。しかしながら、大政奉還関連や近隣の京都水族館と連携した特集展示を行うなど、京都の立地を充分に生かすことができた。また、研究成果を展示につなげるなど、年度計画を十分に達成することができた。						
【中期計画記載事項】 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。 なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。								
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 29年度は平常展来館者数が目標値を達成するとともに、「鳥羽伏見の戦い」や「御所文化を受け継ぐ」など、研究成果を元に日本及び京都の文化の理解促進に寄与する展示を充分に行うことや、展示に関する説明の多言語化に取り組むなど、中期計画2年目として順調に進捗している。 中期計画3年目も引き続き平常展来館者数を達成することや、平常展の活性化に取り組んでいきたい。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ①平常展							
【年度計画】 (4館共通) 1) 平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。 (奈良国立博物館) 1) 下記のとおり各展示施設において、最新の研究成果を取り入れた名品展(平常展)を実施する。また、収蔵品の中からテーマを選んで特集展示を適宜実施する。 ・西新館 絵画・書跡・工芸・考古 ・なら仏像館 彫刻 ・青銅器館 中国古代青銅器 2) 分野の枠を超えた特別陳列を実施する。 独創的な研究テーマ及び地域に密着した研究テーマによる特別陳列の充実 ・「お水取り」(30年2月6日～3月14日) など								
担当部課	学芸部			事業責任者	部長 内藤 栄			
【実績・成果】 (4館共通) 1) ・来館者数については、目標値を達成した。 ・展示替件数については、目標値(前中期計画期間の平均値)の64%にとどまった。 (奈良国立博物館) 1) 下記の通り名品展を実施し、また特集展示を2件開催した。 ・西新館 名品展「珠玉の仏教美術」 開催期間：12月9日(土)～30年3月14日(水) ・なら仏像館 名品展「珠玉の仏たち」 開催期間：4月1日(土)～30年1月8日(日)、1月13日(土)～3月31日(土) ・青銅器館 名品展「中国古代青銅器」 開催期間：4月1日(土)～7月30日(日)、8月10日(木)～30年3月31日(土) ・特集展示「新たに修理された文化財」 開催期間：12月26日(火)～30年1月14日(日) 会場：西新館 ・特集展示「名もなき知識、発願者たち(写経編)」 開催期間：30年2月6日(火)～3月14日(水) 会場：西新館 2) 下記の通り特別陳列を開催した。 ・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術 ―特集 社家史料と若宮―」 会場：東新館 開催期間：12月9日(土)～30年1月14日(日) ・修理完成記念特別陳列「薬師寺の名画―板絵神像と長沢芦雪筆旧福寿院障壁画―」 会場：西新館 開催期間：30年2月6日(火)～3月14日(日) ・特別陳列「お水取り」 会場：東新館 開催期間：同上								
【補足事項】 ・名品展の展示替件数については、前中期計画期間の平均値には達していないが、これは特別展の開催場所・時期の関係で、名品展「珠玉の仏教美術」の開催日数が少ないためであり、限られた展示期間・面積の中では最大限の数値を上げている。								
30年1月の大規模な展示替え後のなら仏像館第8室								
								
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28
平常展の来館者数	135,776 人	118,173人	B		122,075	92,147	95,208	145,676
平常展の展示替件数	210 件	314件	D		130	208	286	427
平常展の展示総件数	548 件	-	-		632	675	620	664
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 来館者数は前中期計画期間の平均値を上回り、目標を達成した。展示替件数は前中期計画期間の平均値の64%にとどまっているが、およそ同件数の26年度と比較しても来館者数は多く、魅力ある展示を行うことができていると評価する。今後も、展示内容を充実させ、来館者の増加と満足度向上に努める。						
【中期計画記載事項】 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。 なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 今年度も、特別展や特別陳列との展示会場の棲み分けをしながら、着実に名品展を開催することができた。また、展示解説を充実させる一環として、なら仏像館での名品展「珠玉の仏たち」における日本語版の音声ガイドを新たに導入した。今後も利用者の意見を収集し、ガイド内容の改善に努める。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ①平常展							
【年度計画】 (4館共通) 1)平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。 (九州国立博物館) 1)特別展示によって、独創的なテーマ及び地域に密着したテーマで研究成果を公開する。 ・「水の中からよみがえる歴史—水中考古学最前線」(7月15日～9月10日) ・「対馬—遺宝にみる交流の足跡」(8月8日～9月18日) ・「神と仏と鬼の郷—国東宇佐六郷満山—」(9月13日～11月5日) ・「白隠さんと仙厓さん」(30年1月1日～2月12日) ・徳川美術館所蔵「国宝 初音の調度」(30年1月1日～1月28日) ・「災害に学ぶ・備える～熊本地震と文化財レスキュー～」(30年3月13日～5月6日)								
担当部課	学芸部企画課			事業責任者	課長(兼学芸部長) 小泉恵英			
【実績・成果】 (4館共通) 1)前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指して、平常展は展示替を1,594件行い、来館者は350,848人であった。 (九州国立博物館) 1) ・特別展示「水の中からよみがえる歴史—水中考古学最前線」 近年さまざまな発見が相次ぎ、注目を集める水中考古学について、日本各地の水遺跡からの出土品や最新の調査・探査に使用される水中ロボット等の探査機材などを展示した。水中ロボットを中心に据え、海を意識させる展示室は来館者の目を引き、夏休み期間中ということもあって多くの小中学生が水中考古学に親しんだ。 ・特別展示「対馬—遺宝にみる交流の足跡」 朝鮮半島と日本の間に位置し、古来、両地域の交流の要でありつづけた長崎県の対馬。この地で育まれてきた歴史と文化について、対馬島内外に所在するゆかりの文化財を通じて紹介した。 ・特別展示「大分県国東宇佐六郷満山展～神と仏と鬼の郷～」(「神と仏と鬼の郷—国東宇佐六郷満山—」から名称を変更。) 30年に開山1300年を迎える大分県国東半島は、宇佐神宮を中心に発展した八幡信仰と山岳信仰が融合し、独自の仏教文化が開いた。この地にのこる彫刻の優品を中心に、歴史を物語る考古遺物などを展示し、好評を博した。西日本新聞社と広報の連携を図ったことで、遠方からの来館者も多く、図録も完売するなど大きな反響を呼んだ。 ・特別展示「白隠さんと仙厓さん」 白隠禅師の250年遠忌を記念して開催した本展は、白隠とともに親しみやすい禅画で知られる福岡ゆかりの仙厓を取り上げ、江戸時代を代表する2人の禅僧の作品を紹介した。お正月らしい広報印刷物と西日本新聞社との連携による強力な広報体制により、通常よりも多くの来館者を得た。 ・新春特別公開 徳川美術館所蔵「国宝 初音の調度」 徳川三代将軍家光の長女の婚礼調度である「初音の調度」から、国宝3点(「初音蒔絵旅眉作箱」「初音蒔絵耳盥・輪台」「初音蒔絵渡金箱」)を展示した。また、これらの作品に取り入れられている手法の筆手についてパネルで解説した。その他、同美術館が所蔵する鏡台、櫛台などの名品や、盛岡藩南部家ゆかりの婚礼調度も合わせて紹介した。 ・特集展示「災害に学ぶ・備える～熊本地震と文化財レスキュー～」 28年4月に起こった熊本地震から2年目を迎えるにあたり、熊本における地震の歴史を振り返るとともに、熊本地震における文化財等の被害の実態や被災文化財のレスキューの取り組みを紹介した。								
【補足事項】 従来の呼称「トピック展示」を「特別展示」と改め、その認知に努めた。 								

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ①平常展								
【年度計画】 (4館共通) 2)作品キャプション、展示に関する説明パネルの多言語化に取り組む。									
担当部課	東京国立博物館学芸研究部列品管理課 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館学芸部 九州国立博物館学芸部企画課	事業責任者	課長 救仁郷秀明 企画室長 伊藤信二 情報サービス室長 岩井共二 課長(兼学芸部長) 小泉恵英						
【実績・成果】 (東京国立博物館) ・展示説明において作品キャプション全てに英語・中国語・韓国語を付した。 ・展示テーマ数137件(100%)について引き続き外国語パネルの設置を実施している。英語・中国語・韓国語での解説整備がすでに進捗しているところであるが、29年度も一部パネルの中国語、韓国語の解説を新たに付した。 (京都国立博物館) ・平常展の展示作品の作品解説について、一部英訳を併記した。なお、作品名称については全て英訳を併記した。また、展示テーマ紹介パネル51件全てに英訳を併記した。 ・中国語(簡体字)、韓国語については、英訳されている情報を出品一覧として配布した。なお、30年1月より中国語(繁体字)の出品一覧を追加した。 (奈良国立博物館) ・名品展「珠玉の仏たち」では、テーマ解説、題箋のタイトル／所蔵／材質技法／制作年に、英語・中国語・韓国語を付け、大型作品には、英文解説を付けた。 ・名品展「中国古代青銅器」では、挨拶文・テーマ解説に、英語・中国語・韓国語の併記を実施した。 ・名品展「珠玉の仏教美術」では、全ての作品キャプションを英語化した。パネル類は、全て英語を併記した。 ・なら仏像館においては挨拶文の英語・中国語・韓国語・仏語の併記を実施した。 (九州国立博物館) ・平常展では、全作品のキャプションを日英中韓の4カ国語表記とし、主要な作品については解説についても4カ国語とした。音声ガイドの内容及び機器の刷新を行い、30年度から新しい音声ガイドシステムを導入する。 ・韓国語及び中国語の翻訳を専門とするアソシエイトフェロー2名の採用により、迅速かつきめ細やかな多言語化を実現することができた。									
【補足事項】 (奈良国立博物館) ・中国語・韓国語のキャプション等に対応するためネイティブのアソシエイトフェロー(各1名)を新規配置した。 ・青銅器館において、作品名・基本データ・解説テキストの多言語化を実施した。 (九州国立博物館) ・外国人からのニーズも高いスーパーハイビジョンシアターについて、多言語化を具体的に検討した。映像と同期させた英中韓3ヶ国語のナレーションを準備し、個別のヘッドホンで聞く方法を採用し、30年度から運用する。									
【定量的評価】項目		29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
外国語パネル等の設置									
東京国立博物館		100%	-	-		100	100	100	100
京都国立博物館		100%	-	-		-	100	100	100
奈良国立博物館		100%	-	-		91	100	100	100
九州国立博物館		100%	-	-		85	92	92	100
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 年度計画に掲げる多言語化を着実に実施した。作品キャプション・展示に関するパネルの多言語化に加え、必要に応じてテーマ解説や挨拶文の多言語化にも取り組んだ。							
【中期計画記載事項】 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。(略)									
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 28年度に引き続き、展示に関する説明パネルの充実、作品キャプション等の多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加に的確に対応している。中期目標の達成に向けて、30年度は作品キャプション等の多言語化を引き続き進め、より分かりやすい内容としていけるよう取り組む予定である。							

【博物館】

施設名

4 館

処理番号

1213ABCD

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ①平常展								
【年度計画】 (4館共通) 3)満足度調査等を実施し、その結果を展示内容等の改善に活かす。									
担当部課	東京国立博物館学芸研究部列品管理課 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館総務課 九州国立博物館学芸部企画課			事業責任者	課長 救仁郷秀明 企画室長 伊藤信二 課長 室溪 浩 課長 (兼学芸部長) 小泉恵英				
【実績・成果】 (東京国立博物館) ・タッチパネルアンケートまたは記述式アンケートにより、総合文化展のアンケートを実施し、集計結果を基に観覧環境改善に努めた。また、記述式要望書やホームページの意見欄によって、当館への質問や意見を収集し、外部委託業者を含めて館内全体で共有、改善に努めた。 (京都国立博物館) ・多言語化対応の充実のため、中国語、韓国語のアンケートを導入した。 ・28年度に引き続き、動線等を分かりやすくするために章パネル等にフロアマップを併記した。 (奈良国立博物館) ・28年度に名品展「珠玉の仏たち」において英語・中国語・韓国語の音声ガイドを導入したが、日本語版音声ガイドへの要望が多かったため、29年10月にサービスを開始した。 (九州国立博物館) ・来館者からの意見等については、文化交流展で実施しているアンケート等を館内全職員で共有し、展示内容等の改善に活用した。 ・キャプションについては、従来の日英に中韓を加えて4ヵ国語とし、増加の一途をたどる外国人の満足度が高まるよう努めた。 ・文化交流展の展示が分かりやすいよう、展示作品の写真と場所を示したフロアマップを展示室内外に掲出した。									
【補足事項】 (東京国立博物館) ・定期的にアンケートの項目を見直し、要望が多いキャプション等への指摘に対して改善を行った。 ・来館者からの質問・意見については、担当部署へ照会するとともに館内で情報共有を図り、対応を要するものについては迅速に対応した。 (京都国立博物館) ・中国語、韓国語の出品一覧の配布場所がわかりづらいという意見に対応するため、案内看板を増設した。 ・章パネルへのフロアマップ併記に加え、特別展覧会で用いた案内看板を平常展でも活用し、動線をわかりやすくした。 (九州国立博物館) ・アンケートや職員に対する意見等、展示に対して寄せられた声を一覧できるようにし、館長以下、研究員や館内職員全体で問題点の共有を図り、結果を元に環境改善に努めた。とくに迅速な対応が求められる指摘については、担当部署に個別に回送し、改善に取り組む体制を整えた。									
【定量的評価】項目		29年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	25	26	27	28
平常展の来館者アンケート満足度									
東京国立博物館		87.3%	74%	B		78	77	82	71.0
京都国立博物館		84.4%	79%	B		-	74	83	75.0
奈良国立博物館		90.1%	79%	B		84	81	78	88.9
九州国立博物館		77.8%	67%	B	65	62	72	73.8	
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 来館者アンケートでは目標を上回る満足度を達成することができた。指摘事項や回答内容をもとに展示内容や解説の改善を行うことでアンケートの結果を活用することができた。							
【中期計画記載事項】 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。 なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 28年度に引き続き、来館者アンケート満足度は前中期目標の実績以上を達成することができた。30年度は、各館共通のアンケート項目に対する回答を参考に、展示内容等の改善について他館でも活用できるよう努めていく。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展								
【年度計画】 (4館共通) ア 中期計画で定めた開催回数の達成を目指す。									
担当部課	東京国立博物館学芸企画部 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館学芸部 九州国立博物館学芸部			事業責任者	部長 富田淳 企画室長 伊藤信二 部長 内藤栄 部長(兼企画課長) 小泉恵英				
【実績・成果】 (東京国立博物館) 特別展を7回開催した。内訳：当館開催5回、海外展2回(海外展については、九州国立博物館との共同開催1回含む。) (京都国立博物館) 特別展覧会を2回実施した。 (奈良国立博物館) 特別展を3回開催した。 (九州国立博物館) 特別展を4回実施した。内訳：当館開催3回、海外展1回(海外展については、タイ文化省芸術局、文化庁、東京国立博物館、九州国立博物館、国際交流基金との共同開催)									
【補足事項】 (東京国立博物館) 開催した特別展は次のとおり。 特別展「茶の湯」、日タイ修好130周年記念特別展「タイ ～仏の国の輝き～」、フランス人間国宝展、興福寺中金堂再建記念特別展「運慶」、特別展「仁和寺と御室派のみほとけ 一天平と真言密教の名宝―」(以上、東京国立博物館)、「日本美術のあゆみ―信仰とくらしの造形―」展(バンコク国立博物館) ※九州国立博物館との共同開催、「東アジアの虎美術―韓国・日本・中国―」(韓国国立中央博物館) (京都国立博物館) 開催した特別展は以下のとおり。 開館120周年記念 特別展覧会「海北友松」、開館120周年記念 特別展覧会「国宝」 (奈良国立博物館) 開催した特別展は以下のとおり。 特別展「快慶 日本人を魅了した仏のかたち」、1000年忌特別展「源信 地獄・極楽への扉」、第69回 正倉院展 (九州国立博物館) 開催した特別展は以下のとおり。 特別展「タイ ～仏の国の輝き～」、特別展「世界遺産 ラスコ―展 クロマニヨン人が見た世界」、特別展「新・桃山展―大航海時代の日本美術―」									
【定量的評価】 項目		29年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	25	26	27	28
特別展の開催回数(海外展含む)									
東京国立博物館		7回	年3～4回	A		8	8	6	13
京都国立博物館		2回	年1～2回	B		3	2	3	2
奈良国立博物館		3回	年2～3回	B		3	3	4	3
九州国立博物館		4回	年2～3回	A	5	5	4	5	
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 目標値を上回る回数の特別展を実施した。質の面でも充実したものとなっている。海外展をタイや韓国で開催し、日本美術を国外に広く紹介することにも努めた。							
【中期計画記載事項】 特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。 (東京国立博物館) 年 3～4 回程度 (京都国立博物館) 年 1～2 回程度 (奈良国立博物館) 年 2～3 回程度 (九州国立博物館) 年 2～3 回程度									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 国内外の博物館と連携した質の高い特別展を多数開催することができた。30年度以降も、国民の関心の高い時宜に適った企画を行い、展覧会の質の高さを保ちながら目標を上回る多数の特別展を開催する。							

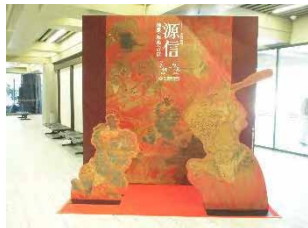
※東京国立博物館で開催の「アラビアの道―サウジアラビア王国の至宝」は会期が30年1月23日～5月13日のため、30年度の実績とする。

※九州国立博物館で開催の特別展「王羲之と日本の書」は会期が30年2月10日～4月8日のため、30年度の実績とする。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展								
【年度計画】 (4館共通) イ 満足度調査等を実施するなど広く意見を求め、満足度の高い特別展となるように改善に取り組む。									
担当部課	総務部総務課 学芸企画部企画課			事業責任者	課長 竹之内勝典 課長 浅見龍介				
【実績・成果】 (4館共通) イ 各特別展において、タッチパネルアンケートまたは記述式アンケートを実施し、来館者の動向及び改善点を把握し、共催者や外部委託業者を含めて、関係者全体で共有するなど、来館者の意見を次回の特別展に反映する取り組みを行っている。アンケート調査の結果は、当館のホームページにおいて公開すると共に、質問等を提出された来館者には適宜必要な回答を行っている。									
【補足事項】 外国人来館者の増加に併せて、外国人からの解説不足の声があることから、外国語の音声ガイド（英語・中国語・韓国語）を作成し、特別展の満足度向上を図った。混雑する特別展では、SNSによる混雑状況のきめ細やかな情報提供と併せて、身体障がい者や子ども連れなどスタッフの支援が必要な来館者の優先入場など、関係者間の情報共有による総合的な支援を図り、来館者に寄り添った対応に努めた。									
									
4か国語対応の音声ガイド案内パネル									
【定量的評価】項目		29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28
特別展の来館者アンケート満足度		86.4%	71%	A		73	67	75	87.9
茶の湯		84.3%	-	-		-	-	-	-
タイ		88.4%	-	-		-	-	-	-
フランス人間国宝展		84.9%	-	-		-	-	-	-
運慶		91.4%	-	-		-	-	-	-
仁和寺と御室派のみほとけ		93.9%	-	-		-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 年間を通じ、85%を超える満足度を達成することができた。中でも「運慶」および「仁和寺と御室派のみほとけ」においてはそれぞれ入館者数が60万人、30万人を超える大規模展でありいずれの展覧会でも入場規制を行ったが、それでもなお満足度が90%を超えることができた。							
【中期計画記載事項】 特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 特別展アンケートにおいては、通常のタッチパネル方式以外に調査員による対面式アンケートを各特別展にて実施し、来館者の意見をより多く集めるよう努めた。今後も引き続きアンケート結果を館内に周知し、来館者の求める展覧会像の実現に向けて努力する。							



中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展							
【年度計画】 (4館共通) イ 満足度調査を実施するなど広く意見を求め、満足度の高い特別展となるよう改善に取り組む。								
担当部課	総務課 学芸部			事業責任者	課長 数馬厚人 企画室長 伊藤信二			
【実績・成果】 (4館共通) イ ・特別展毎に、監視スタッフ向けに留意事項、接遇の基本、業務内容等に関する説明会を行った。 ・大混雑が予想された国宝展においては入場規制、展示レイアウト、音声ガイド作品などについて関係者にて協議を充分に行い、クレームを最小限とするよう、また満足度を向上するよう努めた。 ・特別展においては28年度までは集札を平成知新館にて行っていたが、動線がわかりづらいなどの意見があったため、海北友松展より南門にて集札を行うこととし、平成知新館に入館してからの動線がスムーズとなるよう改善に努めた。								
【補足事項】 イ 国宝展にて行った対策について ・展示室内が撮影禁止であることに対する意見があったため、国宝展において屋外に記念撮影用の顔出しパネルを設置した。 ・音声ガイドにより滞留が激しくならないよう、ガイド作品数、音声ガイドにて解説する作品を十分な協議の上、決定した。また、作品のみならず、展示室のテーマ解説を行う音声ガイドも設け、混雑緩和に努めた。 ・国宝展では連日1万人を越える来館者数であったため、飲料水の販売について既設の自動販売機では対応ができなくなった。そのため、会期中より飲料水販売のための屋外ブースを設置し満足度の改善に努めた。 ・開門時間を状況に応じて早め、屋内である平成知新館グランドロビーになるべく早く待機させるよう努めた。 ・作品のキャプションをガラス面に貼るだけでなく、作品の近くにも配置し、キャプションが読みやすくなるよう努めた。 ・展示室内の休憩用ソファを減らしたため、屋外に休憩用テントを設置した。 ・グランドロビーでの待ち列のために、映像モニターの設置及び毎日新聞社による国宝展特集の抜き刷りの新聞を配布した。 ・金印、伝源頼朝像、曜変天目等、事前に展示期間等の問合せが多かった作品について、出品一覧のフロアマップに展示場所を示した。 ・特に混雑が予想された金印、曜変天目については、作品を最前列で観覧する列と後ろから観覧できる列の両方を設け、展示室内の滞留緩和に努めた。								
								
国宝展顔出しパネル								
【定量的評価】 項目	29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28
特別展の来館者アンケート満足度	81.9%	89%	C		89	88	87	78.1
海北友松	91.3%	-	-		-	-	-	-
国宝	78.3%	-	-		-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 アンケート満足度については、平常展示館として建設された平成知新館にて特別展覧会を行うため、階を跨ぐ動線にならざるを得ないことや既設の平常展の案内図等の改変が難しいこと、そして国宝展においては62万人強の来館者数と稀に見る大混雑であったことから目標値を下回ってしまったことと考える。しかしながら、来館者アンケートの声をもとに、28年度行った以上の対策、飲料水販売のための屋外ブースの設置や屋外への休憩テントの設置など、可能な限りの対策は行っているため、成果としては充分である。							
【中期計画記載事項】 特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 28年度に引き続き、会場動線の可視化に加え、飲料水販売のための屋外ブースの設置など、よりよい観覧環境を実現すべく常に改善を図り、様々な工夫を行った。中期計画2年目として、30年度以降の特別展運営等に資する取り組みを充分に行うことができた。引き続きアンケート結果の速やかな回覧等にて、満足度を向上させるための取組を行っていきたい。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展							
【年度計画】 (4館共通) イ 満足度調査を実施するなど広く意見を求め、満足度の高い特別展となるよう改善に取り組む。								
担当部課	総務課			事業責任者	課長 室溪浩			
【実績・成果】 (4館共通) イ ・特別展「源信」、特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」及び「お水取り」では、対面アンケートを行い、通常の展覧会や名品展での回収率を上げることができ、幅広く意見を聞くことができた。 ・特別展「快慶」では、快慶作品の特徴や鑑賞のポイントについてわかりやすく解説する動画「快慶仏講座」をYouTube上に掲載した。 ・快慶展及び源信展において、記念撮影やSNSの利用といった来館者の需要に応えるため、展覧会場出入り口付近に撮影ゾーンを設置した。 ・正倉院展終了後、会議メンバーや関係スタッフも含め、アンケート結果の反省・改善の為に検討会を行った。 ・館内スタッフの対応について、展覧会毎に全ての監視要員に説明会を行い、要員配置、留意事項、身障者設備、接遇の基本、業務内容、期間中のイベント、各売場、券売機の券種及び割引対象について、説明会を行った。 ・巡回警備の際には、環境美化を保つため適宜対応した。 ・展示物と映像コーナーの順路を考慮し、休憩スペースの確保を行った。また、地下回廊の休憩スペースでは飲食等も可能としている。 ・展示室への照度を考慮し、随時対応した。								
【補足事項】 ・アンケートの要望、不満、意見及び現況を洗い出し、議論を重ね改善案を策定した。 ・記念撮影ゾーンの設置により、来館者のSNSによる広報もねらった。  対面アンケートの様子  アンケート結果の検討会  特別展「源信」撮影ゾーン								
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
特別展の来館者アンケート満足度	88.1%	80%	B		81	79	79	86.4
快慶 日本人を魅了した仏のかたち	94.4%	-	-		-	-	-	-
源信 地獄・極楽への扉	92.0%	-	-		-	-	-	-
第69回正倉院展	78.0%	-	-		-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 人員を配置し、対面アンケート回収を行い、直接お客様の声を聞くとともに回収率の増加に努めた。アンケートで得られた意見については、内容を精査して順次改善を図った。また、特別展では、来館者に要望に応えるべく記念撮影ゾーンの設置や、展覧会の解説する動画をYouTube上に掲載し展覧会への理解を促す工夫を行い、満足度の向上に努めた。							
【中期計画記載事項】 特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 29年度の特別展では、鑑賞の手助けとなるよう、作品の特徴や鑑賞のポイントについてわかりやすく解説する動画(YouTube)の活用や高精細デジタル画像を用いたビューアシシステムの設置を行い、満足度の向上に努めた。29年度の特別展における満足度では、前中期目標の期間の実績以上となったが、30年度以降もアンケートを実施し、意見等への検討を行い改善を図ることで満足度の向上に努める。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展							
【年度計画】 (4館共通) イ 満足度調査を実施するなど広く意見を求め、満足度の高い特別展となるよう改善に取り組む。								
担当部課	学芸部企画課			事業責任者	課長(兼学芸部長) 小泉恵英			
【実績・成果】 (4館共通) イ ・特別展「タイ ～仏の国の輝き～」では上座仏教美術を本格的に紹介し、その理解を深めるための教育普及パネルやコーナーを充実させた。また日タイ協力のもと進められてきた文化財保存修復の成果を紹介することができた。 ・特別展「世界遺産 ラスコー展 クロマニヨン人が見た世界」では、夏休みという期間を意識し親子で参加できる体験型展示やナイトミュージアムイベントを提供した。 ・特別展「新・桃山展―大航海時代の日本美術―」では、安土桃山時代の名品を一堂に展示しただけでなく、これまであまり知られていなかった海外で発展した屏風(ピョンボ)を紹介するなど、日本美術の新たな展開を紹介した。								
【補足事項】  「タイ展」で展示した教育普及パネル								
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	25	26	27	28
特別展の来館者アンケート満足度	87.2%	86%	B		85	85	88	85.9
タイ展～仏の国の輝き～	89.4%	-	-		-	-	-	-
世界遺産 ラスコー展	86.3%	-	-		-	-	-	-
新・桃山展 ―大航海時代の日本美術―	86.0%	-	-		-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 多言語化対応、夜間開館などの新たな試みの中、観覧者の満足度の向上に努め目標数値を上まわった。今後も、関係各所と連携して魅力ある展覧会の運営をし、顧客満足度を高める努力を続ける。							
【中期計画記載事項】 特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 アンケート結果を考慮し、教育普及パネルの充実などを主催間で連携して事業を進めることができた。中期計画の達成に向け順調に推進している。							

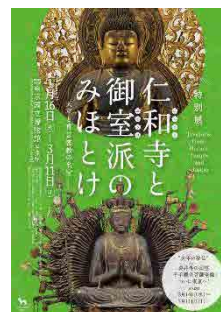
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展		
【年度計画】 (東京国立博物館) ア 特別展「茶の湯」(4月11日～6月4日) 室町時代から近代までの「茶の湯」の美術の変遷を大規模に展開するもの。(目標来館者数15万人)			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部調査研究課平常展調整室主任研究員 三笠景子
【実績】			
展覧会名	特別展「茶の湯」		
会 期	4月11日(火)～6月4日(日)(49日間)		
会 場	平成館		
主 催	東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、毎日新聞社		
作品件数	259件		
来館者数	245,795人(達成率:163.9%)		
入場料金	一般1,600円、大学生1,200円、高校生900円		
アンケート結果	満足度 84.3%		
告知ポスター			
【成果】			
企画構成 展示作品	12世紀頃、中国で学んだ禅僧によってもたらされた宋時代の新しい喫茶法は、禅宗寺院や武家などの間で浸透していった。「唐物」を用い、また室内を飾ることに価値を見出し、安土桃山時代には、日常に使われているもののなかから自分の好みに合った道具をとりあわせる「侘茶」が千利休により大成されて、茶の湯は天下人から大名、町衆へ広く普及した。本展覧会では、おもに室町時代から近代までの「茶の湯」の美術の変遷を展観した。		
学術的意義	「茶の湯」の名品が一堂に会する展覧会は、昭和55年(1980)に当館で開催された「茶の美術」展以来、実に37年ぶりであり、各時代を象徴する名品を通じて、それらに寄り添った人々の心の軌跡、そして次代に伝えるべき日本の美の粋を再確認することができた。		
教育普及	・記念講演会を2回開催した。第1回は4月15日の講演「桃山の茶陶」で当日受付を行い、参加者数373人であった。第2回は5月13日の講演「茶の湯の魅力ー日本、朝鮮、中国のやきものを中心に」で当日受付を行い、参加者数392人であった。 ・シンポジウムを1回開催した。5月12日の「茶の湯を語るーヒトから、モノから」で参加者数393人であった。 ・鑑賞ガイドを2回開催した。第1回4月27日184人、第2回5月19日89人、計273人の参加があった。 ・毎日新聞落語会「茶の湯」寄席を1回開催した。(5月17日参加者336人) ・小・中・高等学校の教員を対象とした研修会を開催し、展示内容の解説と見学に259人の参加があった。 ・ボランティアを対象とした解説会を開催し、77人の参加者があった。 ・ジュニアガイドを編集し、10,000部を刊行した。		
その他 (運営・広報・サービス等)	報道内覧会:4月10日実施 151媒体、196人出席。ポスターB1、B2、B3、プレチラシA4、本チラシ制作。駅大型ボード、京王線駅貼りなどを出稿。新聞:朝日新聞 文化面特集、雑誌:「芸術新潮」6月号、テレビ:NHK「発掘!お宝ガレリア」(4月13日放送)、NHK特番「究極のおもてなし～天下を動かした一服の茶～」、NHK「日曜美術館」などで報道。また、東京国立近代美術館「茶碗の中の宇宙 樂家一子相伝の芸術」と広報協力を実施。		
補 足	  会場風景		
【定量的評価】項目			
来館者数	29年度実績 245,795人	目標値 150,000人	評定 A
【年度計画に対する総合評価】 評定:B		【判定根拠、課題と対応】 出品作品の調査・研究成果をふまえて、各時代を象徴する「茶の湯」の名品を紹介した。また、適切かつ分かりやすい展示を実現することができ、目標人数を大きく上回る来館者を得られたとともに、満足度も高く、年度計画における目標を達成することができた。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展		
【年度計画】			
イ 日タイ修好130周年記念特別展「タイーほほえみの国の仏たち」(7月4日～8月27日)			
タイの仏教美術と日タイ修好の歴史を紹介する。(目標来館者数7万人)			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	出版企画室主任研究員 猪熊兼樹
【実績】			
展覧会名	日タイ修好130周年記念特別展「タイ ～仏の国の輝き～」		
会 期	7月4日(火)～8月27日(火)(49日間)		
会 場	平成館		
主 催	東京国立博物館、タイ王国文化省芸術局、日本経済新聞社、BSジャパン		
作品件数	142件		
来館者数	116,100人(達成率:165.9%)		
入場料金	一般1,600円、大学生1,400円、高校生900円		
アンケート結果	満足度 88.4%		
告知ポスター			
【成果】			
企画構成 展示作品	タイでは、仏教は人々の暮らしに寄り添う大きな存在であり、長い歴史のなかで多様な仏教文化が花開いた。本展覧会では仏教国タイについて、タイ族前史の古代国家、タイ黎明期のスコータイ朝、国際交易国家アユタヤー朝、現王朝のラタナコーシン朝における仏教美術の名品を通じて、同国の歴史と文化を紹介した。本展覧会は、日タイ修好130周年を記念するものであることから、日本とタイの交流史についても合わせて紹介した。		
学術的意義	現在のタイ族以前の宗教彫刻の名品や、タイ族初期につくられた仏像を比較することによって、それぞれの美意識を浮かび上がらせることができた。タイ族初期のタイ文字や文学から、現在のタイの文化の基礎を認めることができた。また、近世日本との交流史についてもあとづけることができた。		
教育普及	・ 記念講演会を1回開催した。8月5日の講演「仏の国の歩み」で当日受付を行い、参加者数319人であった。 ・ シンポジウムを1回開催した。7月15日の国際シンポジウム「タイの仏教美術と王権」で、参加者数193人であった。 ・ タイ芸術局舞踊団来日特別公演「煌めきのタイ～古典舞踊と音楽の世界」を2回開催した。第1回7月4日380人、第2回7月4日318人と、計698人の参加があった。 ・ 7月7日に「みうらじゅんさん&いとうせいこうさんトークショー」を1回開催した。参加者数は338人であった。 ・ 8月11日に体験イベント「タイ舞踏を体験してみよう!」を1回開催した。参加者数は331人であった。		
その他 (運営・広報・サービス等)	報道内覧会:7月3日実施 116媒体、147人出席。プレチラシ、本チラシ、B1、B2、B3ポスター制作。朝日新聞、日経新聞広告出稿、京成線チラシ・ポスター、上野の森桜テラス 柱巻き、上野商店街バナーほか掲出。7月24日タイ観光大使の乃木坂46のメンバーによる会場取材実施。		
補 足	  会場風景		
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価
来館者数	116,100人	70,000人	A
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】	
評価: A		タイの古代から近世に至る仏教美術を中心とした文化財を 142 件を展示した。まともな展示される機会の少ない同国の文化財を紹介する貴重な機会となり、目標を上回る入館者数となった。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信			
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展			
【年度計画】				
ウ 特別展「フランス人間国宝展」(9月12日～11月26日)				
1994年に始まったフランス伝統文化工芸技術認定制度による国家最優秀職人章を授与された作家の作品を紹介する。 (目標来館者数4万人)				
担当部課	学芸企画部企画課		事業責任者	特別展室長 丸山士郎
【実績】				
展覧会名	フランス人間国宝展			
会 期	9月12日(火)～11月26日(日)(67日間)			
会 場	表慶館			
主 催	東京国立博物館、NHKプロモーション、朝日新聞社、HEART & crafts			
作品件数	235件			
来館者数	70,192人(達成率:175.5%)			
入場料金	一般1,400円、大学生1,000円、高校生600円			
アンケート結果	満足度 84.9%			
告知ポスター				
【成果】				
企画構成 展示作品	フランス文化省は、日本の人間国宝(重要無形文化財の保持者)認定にならって、1994年にメートル・ダールという呼称で人間国宝制度を創設しました。本展は、羽細工や金銀細工をはじめとする15の工芸分野、各1名ずつの作家の作品を展示するとともに、同国にける技術の伝承について紹介した。			
学術的意義	展示作品の中には日本美術を参考にした作品もあり、日本美術がいかに解釈されたかを示すことができた。			
教育普及	・9月16日にフォーラムを1回開催した。参加者数は182人であった。 ・9月17日にドキュメンタリー上映&トークイベントを1回開催した。参加者数は94人であった。 ・こどものためのアトリエを4回開催した。第1回9月16日26人、第2回9月16日25人、第3回9月17日23人、第4回9月17日13人、計87人の参加があった。			
その他 (運営・広報・サービス等)	記者発表会:5月17日実施、76社95人出席、報道内覧会:9月11日実施、62社74人出席、B1,B2,B3ポスター、本チラシ制作、Facebook動画広告実施。新聞:朝日新聞、ラジオ:J-WAVど、雑誌・ムック:ミセス10月号、婦人画報10月号、リシェス No.20、SIGNATURE 8&9月号、pen9月15日号、FIGARO11月号、Domani10月号、美術の窓10月号、DEPARTURES(9月29日発行)、HERS10月号、oggi10月号、なごみ(9月28日発行)、週刊新潮(9月20日発行) 他に紹介記事掲載、WEB:Domani.com、spur.com、美術手帖.com、レッツエンジョイ東京ほか			
補 足	  会場風景			
【定量的評価】項目		29年度実績	目標値	評定
来館者数		70,192人	40,000人	A
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】		
評定:A		日本の人間国宝(重要無形文化財の保持者)認定を参考とした、フランス文化省の人間国宝制度により認定された作家の作品を展示し、現代フランス工芸作品を紹介するとともに、日本の制度の意義を示すことができ、目標を大きく上回る入館者数があった。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信			
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展			
【年度計画】 エ 特別展「運慶」(9月26日～11月26日) 日本を代表する仏師運慶が造った彫像を父康慶、息子湛慶、康弁の作品とともに展示する。(目標来館者数25万人)				
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	課長	浅見龍介
【実績】				
展覧会名	興福寺中金堂再建記念特別展「運慶」			
会 期	9月26日(火)～11月26日(日)(55日間)			
会 場	平成館			
主 催	東京国立博物館、法相宗大本山興福寺、朝日新聞社、テレビ朝日			
作品件数	37件			
来館者数	600,439人(達成率:240.2%)			
入場料金	一般1,600円、大学生1,200円、高校生900円			
アンケート結果	満足度 91.4%			
				
告知ポスター				
【成果】				
企画構成 展示作品	運慶は、卓越した造形力で生きているかのような現実感に富んだ仏像を生み出し、輝かしい彫刻の時代をリードした。本展覧会では、運慶とゆかりの深い興福寺をはじめ各地から名品を集めて、その生涯の事績を通覧した。さらに運慶の父・康慶、実子・湛慶、康弁ら親子3代の作品を揃え、運慶の作風の樹立から次代の継承までをたどった。			
学術的意義	運慶作品をこれまでにない規模で集めることで、運慶の作風の変遷を追うことができた。展覧会前あるいは会期中にすべての出品作品の写真撮影を行った。主だった作品についてはCTの撮影を行った。			
教育普及	・記念講演会を2回開催した。第1回は10月1日の講演会「興福寺と運慶―特に北円堂の諸像をめぐる―」で当日受付を行い、参加者数393人であった。第2回は10月28日の講演会「運慶展 最新調査報告」で当日受付を行い、参加者数393人であった。 ・興福寺僧侶による運慶展ミニトークを9回開催した。第1回10月4日380人、第2回10月6日380人、第3回10月6日380人、第4回10月13日380人、第5回10月13日380人、第6回10月20日380人、第7回10月20日380人、第8回10月27日380人、第9回10月27日380人と計3,420人の参加があった。 ・10月6日に「みうらじゅんさんトークイベント」を1回開催した。参加者数は271人であった。 ・10月12日に「研究員によるトークイベント」を1回開催した。参加者数は295人であった。 ・小・中・高等学校の教員を対象とした研修会を開催し、展示内容の解説と見学に177人の参加があった。 ・ボランティアを対象とした解説会を開催し、85人の参加者があった。			
その他 (運営・広報・サービス等)	報道発表会:4月20日実施。102媒体105人出席。ポスター、チラシ各種制作。展覧会公式サイトおよび運慶ファンクラブサイト「運慶学園」を公開。プレスツアー:興福寺(5月29日)、願成就院(5月31日)、浄楽寺(6月1日)実施。新聞:朝日新聞特集掲載、テレビ:NHK BSプレミアム特番、テレビ朝日「報道ステーション」内特集、BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」、雑誌・ムック:「日経おとなのOFF」8月号、「Pen」9月15日発売号、「芸術新潮」10月号(9月25日発売)各誌第1特集掲載、WEB:「インターネットミュージアム」ほか多数報道有。			
補 足	 会場風景			
【定量的評価】項目				
来館者数	29年度実績 600,439人	目標値 250,000人	評価 S	
【年度計画に対する総合評価】 評価:S		【判定根拠、課題と対応】 最も有名な仏師である運慶の現存する作品の大部分を展示し、その作風の変遷と軌跡を示すことによって、目標の2倍を上回る来館者があった。また、出品作品のすべてについて写真撮影を、多くの作品についてCT撮影やファイバースコープによる像内観察を実施し、研究資料の充実を図ることができた。今後これら資料の分析を進め、調査報告、論文発表を行うことにより、彫刻分野の研究進展に寄与できると考える。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信			
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展			
【年度計画】 オ 特別展「仁和寺と御室派のみほとけ」(30年1月16日～3月11日) 真言宗御室派本山の仁和寺と御室派に属する全国の寺々の仏像を始めとする仏教美術の名品を展示する。(目標来館者数15万人)				
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	特別展室長	丸山士郎
【実績】				
展覧会名	特別展「仁和寺と御室派のみほとけ ― 天平と真言密教の名宝 ―」			
会 期	平成30年1月16日（火）～3月11日（日）(48日間)			
会 場	平成館			
主 催	東京国立博物館、真言宗御室派総本山仁和寺、読売新聞社			
作品件数	174件			
来館者数	324,042人（達成率：216.0%）			
入場料金	一般1,600円、大学生1,200円、高校生900円			
アンケート結果	満足度93.9%			
告知ポスター				
【成果】				
企画構成 展示作品	仁和寺は、光孝天皇が鎮護国家・仏法興隆を図るため仁和2年（886）に建立を発願、次代の宇多天皇が先帝の遺旨を継いで仁和4年（888）に完成させ、以後、歴代天皇の厚い帰依を受け、真言宗の門跡寺院である。本展では、仁和寺創建時の阿弥陀如来坐像および両脇侍立像、空海筆の三十帖冊子、中国・北宋時代の孔雀明王像、仏教工芸など仁和寺所蔵の文化財と、仁和寺を総本山とする御室派寺院が所蔵する仏像を中心とした文化財を紹介した。			
学術的意義	三十帖冊子の全帖を公開したのは初めてのことと思われるが、それによって空海の書の特筆を示すことができた。展覧会準備期間および会期中に出品作品のうちの多くの作品について写真撮影を行った。特に8体の秘仏の中には、これまで詳細な調査や写真資料のなかったものもあり、今後の研究に役立てることができる。			
教育普及	・記念講演会を2回開催した。第1回は2月10日の講演「仁和寺と御室派」で、参加者数367人であった。第2回は2月17日の講演「仁和寺と御室派のみほとけ」で、参加者数362人であった。 ・1月19日にフォーラム「観音堂解体修理の最新報告」を1回開催した。応募総数208人、参加者数は210人であった。 ・1月17日に御詠歌を2回開催した。第1回380人、第2回380人と、計760人の参加があった。 ・3月9日に門跡によるお話の会を1回開催した。380人の参加があった。 ・ボランティアを対象とした解説会を開催し、114人の参加者があった。			
その他 (運営・広報・サービス等)	報道発表会：6月19日実施、74媒体89人出席、報道内覧会：1月15日実施、152媒体208人出席、プレチラシ2種、本チラシ、B1,B2,B3ポスター制作、広告：J R東日本、東京メトロ、東武、東急、京王、京成交通広告、朝日新聞、日経新聞などに掲載、テレビ：BS日テレ「ぶらぶら美術博物館」（2月9日）、NHK日曜美術館アートシーン、読売新聞、雑誌・ムック：一個人1月号、目の眼2月号、家庭画報2月号、美術の窓2月号、日経おとなのOFF、芸術新潮、週刊新潮、Precious、STORY、BAILA、ミセス、美術展びあ、婦人公論、和楽、月刊美術、メトロガイド、2018年美術展完全ガイド、必ず見たい2017－2018注目の美術展、時空旅人別冊他、WEBなどで報道有。			
補 足	  会場風景			
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価	
来館者数	324,042人	150,000人	S	
【年度計画に対する総合評価】 評価：S		【判定根拠、課題と対応】 国宝 23 件、重要文化財 75 件を含む 174 件の文化財を展示し仁和寺と御室派の文化財を広く紹介した。観音堂内の再現を行うなど分かり易い展示を行い、目標の2倍を上回る来館者があった。加えて、出品作品のうち創建時の本尊である阿弥陀如来および両脇侍像（国宝）をはじめ、空海筆の三十帖冊子などの重要作品について写真撮影・CT撮影を実施し、研究資料の充実を図ることができた。		



告知ポスター

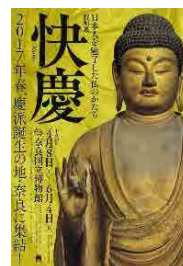
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信			
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展			
【年度計画】 (京都国立博物館) ア 開館120周年記念 特別展覧会「海北友松」(4月11日～5月21日) 狩野永徳や長谷川等伯と並び称される桃山画壇の巨匠である海北友松。その知られざる生涯とその画業の全貌を紹介する。(目標来館者数8万人)				
担当部課	学芸部	事業責任者	部長	山本英男
【実績】				
展覧会名	開館120周年記念 特別展覧会「海北友松」			
会 期	4月11日(火)～5月21日(日)(36日間)			
会 場	平成知新館			
主 催	京都国立博物館、毎日新聞社、NHK京都放送局、NHKプラネット近畿			
作品件数	76件(うち国宝3件、重要文化財17件)			
来館者数	164,900人(達成率:206.1%)			
入場料金	一般 1,500円、大学生1,200円、高校生900円			
アンケート結果	満足度91.3%			
告知ポスター				
【成果】				
企画構成 展示作品	海北友松を取り上げた過去最大規模の回顧展。その代表作はもとより、新発見の作品や書状、史料等をテーマごとにほぼ時系列で展示することによって、不明な点の多い友松の画業と人生を浮き彫りにするように努めた。また、友松を取り巻く人々(絵師や武家、公家や連歌師など)の関連作品を展示し、友松の動向や人となりを分かり易く紹介した。さらに、作品をより印象的に鑑賞するために、照明を暗くした部屋や、一つの作品だけで構成する部屋などを設けた。			
学術的意義	・新たな史料を提示することで、友松が画壇に雄飛する前提として、武家の細川幽斎及び公家の中院通勝との早くからの交流があったことを明らかにした。 ・新たな史料を提示することで、これまで甚だ不明な点の多かった友松の前半生、とくに60歳前後の友松の画業―豊臣秀吉の命による屏風絵制作や吉田兼治邸の障壁画制作などを明らかにした。 ・新たな史料を提示することで、友松の屏風絵が朝鮮に渡った経緯―贈った人物が誰で、いつ贈ったかなど―を明確化した。 ・新発見の友松自筆書状を提示することで、友松による伊賀国での画事や、智仁親王との親密な交流関係を明らかにした。 ・上記のような成果によって、本展図録は第二十九回國華図録賞(朝日新聞社)を受賞した。			
教育普及	・4月15日(土)、記念座談会「日本美術応援団、海北友松を応援する!!」、参加者数215人 ・4月22日(土)、関連講演会「対談 海北友松を語る」、参加者数212人 ・4月29日(土)、関連講演会「孤高の絵師・海北友松」、参加者数206人 ・5月13日(土)、関連講演会「友松の作品―剛と柔・漢と和」、参加者数203人 ・ワークショップ「描いてみよう!墨の線」を会期中実施、参加者数11,508人			
その他 (運営・広報・サービス等)	・美術史の上では桃山画壇の巨匠として揺るぎない評価を得ている海北友松だが、一般の知名度は必ずしも高かったとはいえない。本展では一般の理解を得られやすい展示を心がけることによって、広く認識される存在となった。 ・広報等:日曜美術館(4月30日)にて放映、ニコニコ生放送(5月9日)にて放映、その他多種多様のメディア等にて広報。 ・シアター:講堂にて「一筆成仏―友松の描法考」、「汀の美―友松の描法考」を放映。 ・運営等:想定外の来館者数により入場規制が発生し、展示室内は混雑したが、キャプションを貼りキャプションにて掲出するだけでなく、看板を追加して設置することなどや集札の場所を28年度から変更したことなどにより混雑対策は充分であった。			
補 足				
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価	
来館者数	164,900人	80,000人	S	
【年度計画に対する総合評価】 評価: A		【判定根拠、課題と対応】 過去最大規模の回顧展を実施し、知られざる画家である海北友松を目標値を大きく越える来館者に紹介できたことは想定以上の成果である。また、学術的にも本展図録が第29回國華図録賞(朝日新聞社)を受賞するなど、大きな意味があったと言える。さらには文化財保存活用基金を活用し、28年度から充分な広報を行ってきたことやインターネット番組への出演等の広報戦略が成果に結実したことも大きな成果である。		



告知ポスター

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信			
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展			
【年度計画】 (京都国立博物館) イ 開館120周年記念 特別展覧会「国宝」(10月3日～11月26日) 絵画・書跡・彫刻・工芸・考古の各分野から、歴史と美を兼ね備えた国宝約200件を一堂に会し、我が国の悠久の歴史と美の精華を顕彰する。(目標来館者数20万人)				
担当部課	学芸部	事業責任者	工芸室研究員 降矢哲男	
【実績】				
展覧会名	開館120周年記念 特別展覧会「国宝」			
会 期	10月3日(火)～11月26日(日)(48日間)			
会 場	平成知新館			
主 催	京都国立博物館、毎日新聞社、NHK京都放送局、NHKプラネット近畿			
作品件数	210件(うち国宝210件)			
来館者数	624,493人(達成率:312.2%)			
入場料金	一般1,500円、大学生1,200円、高校生900円			
アンケート結果	満足度78.3%			
			 告知ポスター	
【成果】				
企画構成 展示作品	29年は、日本の法令上「国宝」の語が初めて使用された「古社寺保存法」制定より120年にあたる。当館開館と軌を一にするこの節目の年に、昭和51年(1976)に「日本国宝展」を開催して以来、実に41年ぶりとなる「国宝展」を開催した。本展覧会では、絵画・書跡・彫刻・工芸・考古の各分野から、歴史と美を兼ね備えた国宝210件を大きく4期に分けて展示したものである。			
学術的意義	絵画・書跡・彫刻・工芸・考古の各分野の国宝を集めて展示を行うだけでなく、テーマを設け、分野毎に国宝の特徴や意味について検討を行い展示に反映させた。それに加え、各研究員が分野毎の論考(図録)を公表した。陶磁分野を例にあげると、「禅の世界観」と「東山御物の美意識」とテーマを設け展示を行い、陶磁分野の国宝が国宝に指定される文化的背景などについて検証し、その成果を論考(図録)として公表し結果、第59回全国カタログ図録部門文部科学大臣賞を受賞するなど、学術的にも非常に意味深い展覧会となった。			
教育普及	・11月4日 記念講演会「国宝の杜へ京都国立博物館と古社寺保存法―」、参加者数200人 ・展示作品に関連した体験コーナー(ミュージアム・カート)を展開、参加者数189,000人(概算) ・休館日に近隣の京都市立小中学校の児童・生徒を招き特別鑑賞会を実施、参加者数812人			
その他 (運営・広報・サービス等)	・広報:「日曜美術館」、「NHK歴史秘話ヒストリア」、「ぶらぶら美術・博物館」、「NEWS ZERO」、「報道ステーション」、「ニコニコ生放送」、「とくダネ!」等、多くのムービーにて広報。 ・6月5日 開幕120日前のカウントダウンイベント及びトークショーを実施。 ・8月7日 本展出品作品「黄不動」について、修理を行った際、腹部のあたりに、導師が実際に香水でなぞるためのミニコピーが薄墨で描かれていることが判明し、記者発表を行った。 ・シアター:映像コーナーにて「一生の最快速」を放映。 ・運営等:特に混雑が激しかった「曜変天目」、「金印」については最前列で観覧するための専用の待ち列を展示室内に設け、混雑対策を行った。また、展示室内の休憩用ソファを減らしたため、屋外に休憩用のテントを設けることや、急遽屋外に飲料水販売のためのブースを設置することなど、サービスが低下しないように努めた。 ・2017年関西元気文化圏賞特別賞受賞は、本展覧会の成功が主因になったと言ってよい。			
補 足				
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価	
来館者数	624,493人	200,000人	S	
【年度計画に対する総合評価】 評価: S		【判定根拠、課題と対応】 「国宝」展の開催をきっかけとし、(株)小学館を中心として「国宝応援プロジェクト」が発足されるなど、「国宝」そのものが注目されたことや、過去最高の特別展来館者数を記録し、国民の宝である「国宝」を守り伝えることの意義を大勢に伝えることができた。開館 120 周年の節目を飾るに相応しい極めて顕著な成果があったことは間違いない。 また、現在「国宝」に指定される美術工芸品のうち約 4 分の 1 を各分野毎にテーマを設け質の高い展示をしたことや、開幕に先立って「黄不動」の修復によって得られた知見について記者発表を行ったことなど学術的な意義も極めて大きかったものである。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信			
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展			
【年度計画】 ア 特別展「快慶 日本人を魅了した仏のかたち」(4月8日～6月4日) 快慶の代表的な作品を一堂に集め、わが国の仏教美術史に残した偉大な足跡をたどる。また、関連資料をあわせて展示することにより、いまだ多くの謎に包まれた快慶の実像に迫る。(目標来館者数7万人)				
担当部課	学芸部	事業責任者	主任研究員 山口隆介	
【実績】				
展覧会名	快慶 日本人を魅了した仏のかたち			
会 期	4月8日(土)～6月4日(日) (51日間)			
会 場	奈良国立博物館 東新館・西新館			
主 催	奈良国立博物館、読売新聞社、読売テレビ			
作品件数	88件 (うち国宝7件、重要文化財50件)			
来館者数	123,842人 (達成率: 176.9%)			
入場料金	一般1,500円、高校・大学生1,000円、小・中学生500円			
アンケート結果	満足度 94.4%			
告知ポスター				
				
【成果】				
企画構成 展示作品	・快慶の生涯をたどるうえで欠かすことのできない7つのトピックを7つの章として展示を構成することで、単に作品の形式や作風の変遷を追うだけでなく快慶の多様な人物像を紹介した。 ・快慶の代名詞である三尺阿弥陀の展示に際して仮設ケースを新造し、多方向から細部まで間近に鑑賞できるよう工夫した。 ・現存する快慶作品の約8割を一堂に集めるとともに、その成立と密接に関わる絵画や高僧たちとの交渉を伝える史料をあわせて展示することで、快慶作品の魅力と日本彫刻史上の意義を広く紹介した。			
学術的意義	・事前に快慶作品の基礎的調査及び高精細デジタルカメラによる撮影を実施し、未出陳快慶作品についても可能な限り調査撮影を行うことで展示会場及び展覧会図録の充実を図った。 ・展覧会の会期中に導入されたX線CTスキャン装置を用いた調査を実施し、快慶作品に関するさまざまな情報を蓄積することに努めた。 ・「如法」をキーワードに快慶の生涯をたどる総論、4本の各論、未出陳快慶作品一覧、各種資料集成(造像銘記、彩色・截金文様、X線透過画像)、主要参考文献、年譜など学術的価値の高い資料を図録に掲載した。			
教育普及	・快慶の生涯を紹介するアニメーション映像「祈りを刻んだ巧匠仏師 快慶」を制作して会場で上映し、快慶の生きた時代やその人物像への理解を促した。 ・会期中に公開講座を3回実施した。 ・小学生の親子を対象とする仏像の着衣について学ぶワークショップと、一般を対象とする截金技法を体験するワークショップを実施した。			
その他 (運営・広報・サービス等)	・展示会場に掲示したパネルを4言語(日本語・英語・中国語・韓国語)表記とすることで、より多くの来館者に対して展示内容への理解を促した。 ・快慶作品の特徴や鑑賞のポイントについてわかりやすく解説する動画「快慶仏講座」をYouTube上に掲載した。また、これに関連して動画の視聴や快慶展の鑑賞によって得た知識を試すミニ検定「快慶仏検定」を会期中に2回実施した。 ・快慶展のほか興福寺の国宝特別公開2017「阿修羅―天平乾漆群像展―」(3月15日～6月18日、9月15日～11月19日)と東京国立博物館の興福寺中金堂再建記念特別展「運慶」(9月26日～11月26日)を巡り全てのスタンプを集めた方に抽選でプレゼントを贈呈する「仏像展巡りスタンプラリー」を実施した。			
補 足	【公開講座・ワークショップ】 ・4月22日(土) 公開講座「快慶を生んだ社会と宗教」 横内裕人氏(京都府立大学文学部教授) 参加者194名 ・4月29日(土・祝) 親と子のワークショップ「着て楽しむ! ほとけさまのファッション」 岩井共二(当館学芸部情報サービス室長) 参加者合計52名 ・5月3日(水・祝)、20日(土) ワークショップ「截金技法の体験をしてみよう!」 吉水快閑氏(彫刻家) 参加者合計59名 ・5月13日(土) 公開講座「快慶の生涯と「如法」の仏像」 山口隆介(当館学芸部主任研究員) 参加者194名 ・5月27日(土) 公開講座「快慶作品に関する二、三の問題」 岩田茂樹(当館学芸部上席研究員) 参加者194名			
【定量的評価】項目		29年度実績	目標値	評価
来館者数		123,842人	70,000人	A
【年度計画に対する総合評価】 評価: A		【判定根拠、課題と対応】 快慶を単独で取り上げた初の大規模展覧会で、いま知られている快慶作品の約8割が一堂に会するとともに、アメリカの美術館に所蔵される3件4点の快慶作品の里帰りも実現した。満足度94.4%と非常に高い評価を得るとともに、目標人数を大幅に上回る入場者数を達成した。		



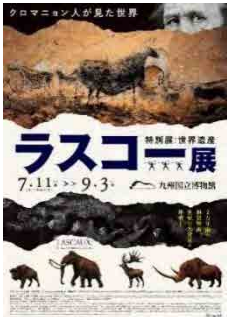
告知ポスター

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信				
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展				
【年度計画】					
イ 1000年忌特別展「源信 地獄・極楽への扉」(7月15日～9月3日)					
源信の1000年忌を記念し、その生誕の地である奈良で、源信の生きた時代をたどるとともに、その後世に与えた影響の大きさを、関連の仏教美術を一堂に会することによって示す。(目標来館者数4万人)					
担当部課	学芸部	事業責任者	主任研究員 北澤菜月		
【実績】		 チラシ			
展覧会名	1000年忌特別展「源信 地獄・極楽への扉」				
会 期	7月15日(土)～9月3日(日) (45日間)				
会 場	奈良国立博物館 東新館・西新館				
主 催	奈良国立博物館、朝日新聞社、NHK奈良放送局				
作品件数	136件 (うち国宝22件、重要文化財65件)				
来館者数	72,540人 (達成率: 181.4%)				
入場料金	一般1,500円、高校・大学生900円、小・中学生500円				
アンケート結果	満足度 92.0%				
【成果】					
企画構成 展示作品	・29年に没後1000年を迎えた高僧、恵心僧都源信の生涯や思想とともに、源信により広められた地獄・極楽のイメージ等を紹介した。展示前半で源信について紹介した上で、後半には地獄・極楽を含む死後世界を表す作品や、源信の周辺で描かれはじめた阿弥陀来迎図の名品といった浄土信仰の美術を絵画中心に展示した。なお本展は多数の国宝を含む浄土信仰美術の名品が一堂に会する機会となったが、こうした特別展は全国的に見ても近年 (30年以上) 開かれていない。 ・名品を一度に鑑賞することによって作品の魅力を楽しんでいただくのみでなく、源信という高僧の思想やのちに与えた影響を、初出陳を含む文書や絵画によって伝えることで、学術的意義及び学習の価値を高めることを試みた。 ・本展では源信が奈良で生まれたことを重視し、生誕の地周辺の文化財を積極的に紹介した。 ・本展は、近年しばしば報道された社会的な「地獄ブーム」を踏まえて企画されたが、源信の1000年忌にあわせた開催によって、死後の世界への潜在的関心が一層呼び起こされた感があり、展覧会開催中や終了後も新聞社等から取材を受ける機会があった。				
学術的意義	・源信の生涯や思想を紹介する特別展は過去に例がなかったが、周辺の日本史学や仏教史学、美術史学の研究における最新の研究成果を踏まえた源信像を示す展示を行うことができた。 ・地獄や極楽を含む死後の世界を描く六道絵や、極楽浄土図、阿弥陀来迎図といった源信と関係して発展した浄土信仰美術の名品を一堂に会することによって作品各々の表現の素晴らしさや作品のヴァリエーション等について理解を深める機会をつくることができた。またそうした作品を源信と関係付けながら紹介する展覧会は本展が初めての試みであり画期的なコンセプトを提示することができた。 ・源信とその影響下で生まれた浄土信仰の美術に関する総説、3本の各論、関連年表など学術的価値の高い資料を図録に掲載した。				
教育普及	・本展において重要な展示品の一つである国宝「六道絵」(滋賀・聖衆来迎寺所蔵) 15幅について、「デジタル六道絵」と称して高精細デジタル画像を用いたビューアシステムを会場内に設置した。 ・小学生の子どもを対象に「地獄・極楽すごろく」を作成し会場内で配布した。 ・会期中に小学生の親子を対象とするワークショップ「つくってわかる！立体地獄絵」を実施した。 ・会期中に小学生の親子を対象とする親子講座「エンマさまと地獄めぐり」を実施した。 ・会期中に公開講座を3回実施した。				
その他 (運営・広報・サービス等)	・小中学生の夏休み期間に子ども無料日を設けた (7月29日・30日)。この期間に子ども対象のイベント・ワークショップを開催し、マスコミの取材を受けることによって広報につなげた。 ・館内の展覧会出口付近に撮影ゾーンを設置し、記念撮影やSNSといった来館者の需要に応えるとともに、SNSによる広報をねらった。 ・日本語のほか、英語・中国語・韓国語の音声ガイドを用意した。 ・源信の生涯と思想に関わる映像を制作し会場内で上映した。				
補 足	【公開講座・ワークショップ】 ○公開講座 3回 参加者数合計 571人 8月 5日(土)「浄土の造形—源信以後を中心に—」 武笠 朗(実践女子大学教授) / 参加者数 183人 8月19日(土)『『往生要集』の成立—天台浄土教と源信の信心—』 小原仁(聖心女子大学文学部名誉教授) / 参加者数 194人 9月 2日(土)「源信と浄土信仰の美術」 北澤菜月(主任研究員) / 参加者数 194人 ○夏季講座 1回 参加者数合計 525人 8月23日(水)～25日(金) 夏季講座「地獄・極楽と浄土信仰の美術」 / 参加者数 525人 ○展覧会関連イベント 2回 参加者数合計 194人 7月29日(土)親子講座「エンマ様と地獄めぐり」 鷹巣 純(愛知教育大学教授) / 参加者数 159人 7月30日(日)親子向けワークショップ「つくってわかる！立体地獄絵」 奈良教育大学大学院生/ 参加者数 35人				
【定量的評価】 項目		29年度実績	目標値	評定	
来館者数		72,540人	40,000人	A	
【年度計画に対する総合評価】 評定: A		【判定根拠、課題と対応】 本展は源信と浄土信仰の美術を関連づけて展観するこれまでにない試みであり、関連する浄土信仰美術の名品を一堂に展示することができたことも高く評価できる。観覧者の満足度も92.0%と高い評価を得、目標人数を大幅に上回る入場者数を達成することが出来た。			

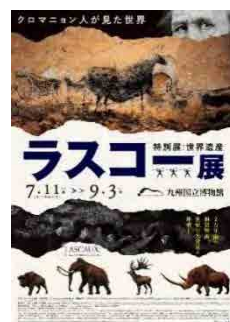
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信			
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展			
【年度計画】 ウ 特別展「第69回正倉院展」(予定) 正倉院に伝わる宝物約70件を展示。(目標来館者数18万人)				
担当部課	学芸部	事業責任者	工芸考古室長	清水健
【実績】				
展覧会名	第69回 正倉院展			
会 期	10月28日(土)～11月13日(月)(17日間)			
会 場	奈良国立博物館 東新館・西新館			
主 催	奈良国立博物館			
作品件数	58件			
来館者数	217,053人(達成率:120.6%)			
入場料金	一般1,100円、高校・大学生700円、小・中学生400円			
アンケート結果	満足度 78.0%			
告知ポスター				
【成果】				
企画構成 展示作品	天平文化の精華を広く国民に公開する秋恒例の展覧会。69回目となった29年度は、正倉院宝物が概観できる器物、染織品、文書・経巻など初出陳10件を含む58件が出陳された。今回は、北倉伝来の聖武天皇ゆかりの宝物からはじまり、第1会場(東新館)に、楽器や楽舞に係る宝物など「楽しみ」に関わる華やかな品を配置した。第2会場(西新館)の第1室には献物を彩る容器などを集め、これに続けて仏・菩薩への献物類、東大寺への寄進に関わる文書、奈良時代の文書・地図と進み、服飾品を挟んで、写経に関する文書・用具を経て、聖語蔵経巻で締め括った。総体に奈良時代の宮廷の晴れやかな暮らしから、貴顕の祈りの世界に進み、社会生活や装いという部分を挟んで、写経事業という国家の営為を示すという展開であった。			
学術的意義	正倉院宝物を大規模に公開するほとんど唯一の機会であり、殊に初出陳品は一般に公開されるのが史上初めてで、本展の開催自体が重要な意義を持っていると考えられる。また今回は、正倉院宝物の国際性を示す宝物を通じて、シルクロードを通じた8世紀の東西交流と、これらが我が国の文化に与えた影響を示せたものと思う。 図録には多くの新写や初公開を含む多くのカラー図版を収録し、用語解説を付した最新の知見を踏まえた解説を収録した。また最新の知見を含む小論文(「宝物寸描」)も掲載し、研究の最前線を提示した。			
教育普及	会場には各宝物毎に簡潔な解説を付した題箋を設置し、また正倉院宝物の概要や、上記の構成に添った各コーナー毎の見所を記したパネルや部分拡大図、技法解説などを随所に配置して、理解の促進を図った。そのほとんどは日本語・英語・中国語(簡体字)・韓の4カ国語とし、国際的な理解の促進に注力した。 会期中には公開講座3回、「色」をテーマとした学術シンポジウム、解説付きの親子鑑賞会を各1回実施した。また1日5回(公開講座の日は会場の都合で3回)、ボランティア解説員による見所解説を講堂にて行った。さらに、会期前には大学1校で、研究員による出前授業を実施した。			
その他 (運営・広報・サービス等)	特別協力者(新聞社)の協力を得て、交通広告など、大規模な広報展開を行った。また、特別協力者と協力して新聞の特集紙面を構成し、会場で配布するとともに、申し出のあった学校等へも配布した。 館内に予約制の託児室を設け、観覧環境の充実に努めた。また待ち列部分で映像を流し、観覧環境の向上や観覧マナーについて啓発及び注意喚起を行った。手荷物預かり所を新設し、コインロッカーを増設して、観覧環境の向上を促進した。 自由動線とし、壁沿いの展示を減らすなど混雑緩和に努めた。また第2会場の第1室のみ、車椅子に対応した展示の高さを試みた。なお、大きな混乱は生じなかったため、今後は拡充を考えている。 学芸部で監修した日本語・英語・中国語(普通話)・韓国語・子ども用の音声ガイドを有料で貸し出した。			
補 足	【公開講座・ワークショップ】 公開講座の日時、テーマ、講師は以下の通り。 10月28日(土)「正倉院の襷綴技法について」片岡真純氏(宮内庁正倉院事務所) 11月4日(土)「正倉院の鏡」中川あや(当館) 11月11日(土)「正倉院の屏風と蓮華蔵世界」長岡龍作氏(東北大学大学院)			
【定量的評価】項目		29年度実績	目標値	評定
来館者数		217,053人	180,000人	A
【年度計画に対する総合評価】 評定:A		【判定根拠、課題と対応】 28年度よりも来館者数が増えたにもかかわらず、前年を上回る高い満足度であった。会場は局所的な滞留が少なく、概ね自然な動線が確立していた。29年度は初めて会場のコーナー解説・作品解説の全部、及び音声ガイドに中・韓の翻訳を付し多言語化に努めた。そのため多言語化やや壁ケースに写真パネルを掲示することを評価する意見が多くみられたが、展示の高さや照明、展示物の配置に関しては厳しい意見も多く、一層の改善に努めたい。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展		
【年度計画】			
ア 特別展「タイ展～仏の国の輝き～」(4月11日～6月4日)			
タイ王国門外不出の名宝と、選りすぐりの仏教美術の数々を一堂に集めた展覧会で、日タイ修好130周年の節目に両国が総力を結集して開催する。(目標来館者数6万人)			
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	特別展示室長 原田あゆみ
【実績】			
展覧会名	特別展「タイ展 ～仏の国の輝き～」		
会 期	4月11日(火)～6月4日(日) (49日間)		
会 場	九州国立博物館 特別展示室		
主 催	九州国立博物館・福岡県、タイ王国文化省芸術局、西日本新聞社、TVQ九州放送、日本経済新聞社、BSジャパン		
作品件数	150件 (うち国宝1件、重要文化財8件)		
来館者数	56,314人 (達成率: 93.9%)		
入場料金	一般1,600円、高大生1,000円、小中生600円		
アンケート結果	満足度 89.5%		
			 告知ポスター
【成果】			
企画構成 展示作品	第1章「タイ前夜 古代の仏教世界」は、タイ族の国が興る以前、タイ文化が芽吹く土壌を形成した国々の信仰の世界をたどった。現在のタイの領土に仏像が伝来した5世紀から、仏教文化が各地で花開いた7～9世紀、タイ族が国を建てはじめる13世紀までを概観した。第2章「スコータイ 幸福の生まれ出づる国」は、タイ族初期の王朝であるスコータイとラーンナータイが、スリランカから上座仏教を王権主導で受容したこと、仏教を通じた両者の繋がりを紹介した。スコータイ時代には、仏足跡信仰がはじまり、この流行はタイ各地に広がり後代にも続いた。第3章「アユタヤー 輝ける交易の都」は、第4章「シヤム 日本人の見た南方の夢」とともに、国際交易都市として知られるアユタヤーを紹介した。第3章では、周辺諸国との交わりの中から生まれた新たな仏教美術に焦点をあてた。第4章では、港市アユタヤーの様子を日本との交流の視点から照射した。第5章「ラタナコーシン インドラ神の宝蔵」は、新都ラタナコーシンが目指したアユタヤー文化の再現と展開、近代の新たな日タイ交流を、仏教美術から概観した。 総件数150件 (タイ王国から100件、国内借用50件)。		
学術的意義	・本展は日本でタイ上座仏教美術を本格的に紹介した初めての展覧会である。 ・本展には19年からタイ王国文化省芸術局と続けてきた学術文化交流事業の成果 (タイにおける日本刀の受容と展開、日タイ仏教僧の交流と請来品の評価等) が盛り込まれている。		
教育普及	・タイ仏教講座「タイ仏教とタイ人の生活」(4月13日) ・日タイ修好130周年記念特別展・学術交流記念講演会「タイと日本 境界を越えて」(4月29日) ・リレー講座「見たい 行きたい よかタイ!」(5月6日、13日) ・展示室におけるタイ仏教文化を理解するための教育普及コラムパネル、映像等の設置。		
その他 (運営・広報・サービス等)	・展覧会会期中、タイプレートランチを提供。 ・夜間開館実施に伴い、シンハービールの提供。		
補 足	本展は、東京国立博物館で昭和62年(1987)に開催された日タイ修好100周年特別展「タイ美術展」以来30年ぶりにタイの文化を本格的に紹介する展覧会であり、当館が19年からタイ王国文化省芸術局と続けてきた学術文化交流事業の成果である。日タイ修好130周年記念事業としてタイ国においても「日本美術のあゆみ」(12月27日～30年2月18日)(タイ文化省芸術局、文化庁、東京国立博物館、九州国立博物館、国際交流基金主催、会場: バンコク国立博物館)を開催し、日本美術を国外において広く紹介した。		
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価
来館者数	56,314人	60,000人	C
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】	
評価: B		一般的にややなじみの薄いテーマでもあり、目標観覧者人数には達しなかったが、アンケート結果では満足度 89.43%と高い評価を得た。アジア諸国との交流を軸に活動する当館としては、アジア文化を理解するための展覧会事業を今後も実施していくべきであり、よりわかりやすい情報発信を念頭に来館者誘致のための広報活動に努める。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信			
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展			
【年度計画】				
イ 特別展「世界遺産 ラスコー展」(7月11日～9月3日)				
フランス南西部に2万年ほど前に人類が躍動感あふれる動物たちを描いたラスコー洞窟の壁画を再現し、2万年前の人類の豊かな創造性や芸術の始まりを知る旅に誘う。(目標来館者数6万人)				
担当部課	学芸部企画課		事業責任者	課長 河野一隆
【実績】				
展覧会名	世界遺産 ラスコー展 クロマニヨン人が見た世界			
会 期	7月11日(火)～9月3日(日) (49日間)			
会 場	九州国立博物館 特別展室			
主 催	九州国立博物館・福岡県、毎日新聞社、RKB毎日放送、西日本新聞社			
作品件数	180件			
来館者数	118,555人 (達成率：197.6%)			
入場料金	一般 1,600 円、高大生 1,000 円、小中生 600 円			
アンケート結果	満足度 86.2%			
【成果】				
企画構成 展示作品	2 万年ほど前、クロマニヨン人が壁画を遺したラスコー洞窟はその重要性が認められ、世界遺産に登録されている。保存のため、洞窟は現在非公開だが、魅力を広く人々に知ってもらうべく、フランス政府公認のもと世界各国を巡回する展覧会に、日本独自のコンテンツを加えたのが本展である。主たる展示作品は、ラスコー洞窟壁画の実物大模型と旧石器時代の石器や芸術品であり、九州会場では同時代の古生物資料を加え、独自性を演出した。			
学術的意義	最新技術を駆使して、誤差1ミリ以下の精度で再現した実物大の洞窟壁画展示によって、普段見られない洞窟内部の世界を疑似体験ができるほか、クロマニヨン人が残した芸術的な彫刻や多彩な道具類にも焦点をあて、2万年前の人類の豊かな創造性に迫ることができた。			
教育普及	九州会場のオリジナルとして、クロマニヨン人が生活していたのと同時代の古生物資料を各地の博物館から借用し、またマンモスの牙に触れるコーナーを設けることで、大変な人気を博した。さらに、クロマニヨン人に扮した劇団員が夜間開館中に会場に登場し、展示品の使い方を実演して当時の生活を再現したり、「夜の洞窟探検」と銘打って夜間のイベントを行うなど、工夫を凝らすことで集客に寄与した。			
その他 (運営・広報・サービス等)	・開催前プロモーションとして、架空の「クロマニヨン語」による動画を配信し、告知と盛り上げを図った。 ・運営では特に大きな混乱は生じなかったが、洞窟が一時的に暗くなる時点での来館者誘導に課題が残った。 ・当館の特別展では珍しく、会場内で写真撮影を可とするポイントを3ヶ所設け、好評を博した。			
補 足	・日没時間が遅い夏休みに相応しい企画で、夜間開館のメリットを生かすことができ、様々な実験的な試みに挑戦することができた。 ・開幕当初は、九州北部豪雨被災の直後ということもあって、客足が若干伸び悩んだが、夏休みに入って会場内撮影がSNSにアップされはじめると情報が拡散し、会期の後半に集客が飛躍的に拡大した。			
【定量的評価】 項目		29年度実績	目標値	評定
来館者数		118,555人	60,000人	S
【年度計画に対する総合評価】 評定：A		【判定根拠、課題と対応】 SNS の活用、展示室内での写真撮影やハンズオン展示、劇団員によるイベントを行うなど、当館独自の様々な工夫を凝らした展覧会となった。その結果、酷暑という悪条件にも関わらず、目標値を大きく越える来館者数を記録し、来館者にとって満足度の高い展覧会を行うことができたことは大いに評価できる。		



告知ポスター



告知ポスター

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信			
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展			
【年度計画】				
ウ 特別展「新・桃山展—大航海時代の日本美術—」(10月14日～11月26日)				
鉄砲伝来(1543年)から鎖国完成(1639年)までの約1世紀に、日本がアジアやヨーロッパとくり広げた交流の歴史を、華やかな美術とともに紹介し、激動の100年を新たな視点から見つめなおす展覧会。(目標来館者数9万人)				
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	特別展室主任研究員	鷺頭桂
【実績】				
展覧会名	「新・桃山展—大航海時代の日本美術—」			
会 期	10月14日(土)～11月26日(日)(38日間)			
会 場	九州国立博物館 3階特別展室			
主 催	九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、TNCテレビ西日本			
作品件数	123件(うち国宝4件、重要文化財28件、重要美術品4件)			
来館者数	87,413人(達成率:97.1%)			
入場料金	一般1,600円、高大生1,000円、小中生600円			
アンケート結果	満足度 86.0%			
告知ポスター				
				
【成果】				
企画構成 展示作品	・構成:本展では、日本を取り巻く国際関係が大きく変動した鉄砲伝来(1543年)から鎖国完成(1639年)までの約百年間に着目し、「文化交流」という新視点から、中世末期～近世初期の日本美術の展開を再検証した。構成の特徴として、第1章「織田信長」、第2章「豊臣秀吉」、第3章「徳川家康」と、知名度の高い重要人物を中核にすえて章立てし、その人物との関係や制作背景が明らかな作品を選定した。それにより来場者の親しみやすさを喚起し、展覧会の命題である「為政者の外交施策が文化に与えた影響」を分かりやすく提示した。企画の新規性として、従来知られてきた南蛮美術のほかに、唐物をはじめとする東、東南アジアとの交流を示す品々や、ポルトガル・スペイン植民地で制作された日本風屏風も展示し、当時の日本が地球規模の交流ネットワークに組み込まれていたことを明示した。 ・作品:123件(国宝4件、重要文化財28件、海外借用3件):「唐獅子図屏風」狩野永徳筆(宮内庁三の丸尚蔵館)、重要文化財「聖フランシスコ・ザビエル像」(神戸市立博物館)、「大洪水図屏風」(メキシコ・ソウマヤ美術館)。絵画、陶磁器、漆器、彫刻、染織、漆工、考古など、多分野の代表作を網羅した。			
学術的意義	・日本史や日本美術史で、長らく個別に取り上げられてきた日明貿易、南蛮貿易、朝鮮通信使、朱印船貿易、日蘭貿易など中世末～近世初期の交流の諸相を、横断的、通史的に整理し、それぞれに関係する基準的作例を出陳した。 ・これまで日本美術史および西洋美術史の狭間で見落とされていた、ポルトガル・スペイン植民地で制作された日本風屏風を、調査、研究、展示し、その成果を広く紹介した点で、本展は高い学術的意義を有する。 ・事前準備において、狩野内膳の代表作の1つである南蛮屏風(個人蔵)を約80年ぶりに発見し、展示した。 ・図録に、海域交流史、スペイン植民地美術の観点から時代を通覧した総論(2本)、地域や作品分野別の各論(5本)、16～17世紀の文化交流を通史的に論じた本文と作品解説を掲載。最新の研究を広く伝えるため総論は英訳を付した。 ・今後、本展に関する論文や口頭発表の予定が国内外で複数あり、本展の成果への注目度は極めて高い。 ・本展の成果は、今後の文化交流展示5テーマでも大いに展開できる。			
教育普及	・講演会:安部龍太郎氏講演会「天下人と大航海時代」、研究員によるリレー講座「大航海時代の世界と日本」、国指定重要無形民俗文化財 幸若舞「敦盛」披露を企画、開催した。 ・黄金の茶室(復元品・京都市蔵)及び長谷川等伯筆松林図屏風高精細複製画を露出展示し、「きゅーはく茶会」「夜のフォトミュージアム」等のイベントを開催した。複製画を撮影可能とし、来館者の理解を助け広報に活用した。 ・外部団体とタイアップしたイベントを開催した。ブックオカ福岡2017主催「キリシタンの世紀と殉教の記憶をめぐって」(作家・星野博美氏を迎えた研究員との対談型トークショー)、大阪大学西洋美術研究室主催「Momoyama Japan and the Artistic Contacts via Asian and Transpacific Sea Lanes」(研究者向け国際ワークショップ)。			
その他 (運営・広報・サービス等)	・会期中、関連企画として、文化交流展示室にて「新・桃山展の仲間たち」を3期(63日間)に渡って2部屋で開催した。 ・テレビ、新聞、交通広告、ウェブ(ホームページ、ツイッター、フェイスブック、ウェブマガジン等)等の広報を行った。 ・NHK日曜美術館にて、ソウマヤ美術館の「大洪水図屏風」の特集を放映し、当館はその製作協力・出演等を行った。また、番組コンテンツやNHKアーカイブを活用して会場映像を制作し、充実した内容の映像を提供した。			
補 足	・調査研究、作品借用を通して、東方基金(リスボン)とソウマヤ美術館(メキシコシティ)と連携した。 ・図録販売:特展グッズ売場で2,500冊、会期中忘羊社(図録編集)からの通信販売部数は約600冊を数えた。			
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価	
来館者数	87,413人	90,000人	C	
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】		
評価: B		来館者数は目標値を下まわったが、従来の桃山美術・南蛮美術の展覧会や研究には無い新視点を提示し、新出の作品紹介を行なうなど、研究史的な意義は高い。今後の日本美術史や海域交流史等の学界にも寄与する内容である。		



告知ポスター

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 2)海外展							
【年度計画】 (東京国立博物館・九州国立博物館共同企画) ア 海外展「日タイ修好130周年記念 日本美術展(仮称)」(12月19日～30年2月11日)(会場：バンコク国立博物館、文化庁共催) 日タイ修好130周年記念として、東京・九州国立博物館、文化庁等所蔵の国宝・重要文化財などを公開し、日本美術の流れを展示、紹介する。								
担当部課	東京国立博物館学芸企画部企画課 九州国立博物館学芸部企画課		事業責任者	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室長 沖松健次郎 特別展室長 原田あゆみ				
【実績・成果】 (東京国立博物館・九州国立博物館共同企画) ア ・展覧会名 日タイ修好130周年記念「日本美術のあゆみ—信仰とくらしの造形—」展 ・会 期 12月27日～30年2月18日(54日間) ・会 場 タイ王国・バンコク国立博物館 ・主 催 タイ王国文化省芸術局、文化庁、東京国立博物館、九州国立博物館、国際交流基金 ・作品件数 106件 ・来館者数 59,599人 日タイ修好130周年を記念する行事の一環であり、タイ王国で日本美術を総合的に紹介する初めての展覧会。 本展覧会は「信仰」と「くらし」をテーマに、国宝・重要文化財を含む106件を「日本美術のはじまり」、「仏教美術」、「公家と武家」、「禅と茶の湯」、「多彩な江戸文化」という6つの構成で紹介した。 特に日本文化の特質を物語る考古資料、美術品等にスポットをあて、縄文時代から江戸時代にかけての考古資料、絵画、彫刻、工芸品、書跡等、我が国の文化と歴史に関する資料約70件を展示した。 本展覧会は4月から8月にかけて東京国立博物館・九州国立博物館において開催された特別展「タイ ～仏の国の輝き～」とともに日タイ修好130周年事業に位置づけられる。両国で相互の文化を紹介する展覧会が開催できた背景には、九州国立博物館とタイ王国文化省芸術局の長年の研究交流と、東京国立博物館、文化庁による展示環境整備、展示協力の成果がある。この展示交流により、日タイ両国の文化交流が一層深まることが期待される。								
【補足事項】 ・学術講演会「日本美術のあゆみ —信仰とくらしの造形—」を実施した(12月27日 沖松健次郎(東京国立博物館) 於：バンコク国立博物館)。 ・お茶会(30年1月14日 ブーイ文子氏 於：バンコク国立博物館)。								
								
バンコク国立博物館での会場の様子								
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28
来館者数	59,599人	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 熱帯地域の博物館での展示環境の整備に多くの労力を費やしたが、そうした技術協力も今後の交流に向けての礎となるものである。 本展の開催にあたり、国際交流基金、在タイ日本大使館、在バンコク日本人会等の協力のほか、多くの一般企業からの協賛を得た。広報面においても積極的に活動し、タイ人のみならずタイ在住外国人や観光客の誘致に成功した。						
【中期計画記載事項】 海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。								
【中期計画に対する評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 本展は19年からタイ王国文化省芸術局と続けてきた学術文化交流事業の成果のひとつである。タイ王国において日本美術を総合的に紹介する初めての展覧会であり、その理解を深めるための展示、グラフィックの作成に努めた。また、ワークショップや体験型展示を通して、来館者の関心を高めることに成功した。 タイにおける展示環境を改善させる方法を両国で探るなど、両者の信頼関係を深める機会となり、タイ国における博物館事業に大きく貢献した。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 2)海外展								
【年度計画】 (東京国立博物館) ア 国立博物館合同企画特別展 「東アジアの虎美術—韓国・日本・中国—」(30年1月26日～3月18日) 東京国立博物館、中国・国家博物館、韓国・国立中央博物館が所蔵する虎にかかわる作品を展示する。									
担当部課	学芸企画部企画課		事業責任者		学芸研究部列品管理課平常展調整室主任研究員 末兼俊彦				
【実績・成果】 (東京国立博物館) ア ・展覧会名 国立博物館合同企画特別展「東アジアの虎美術—韓国・日本・中国—」 ・会 期 30年1月26日(金)～3月18日(日)(52日間) ・会 場 大韓民国・韓国国立中央博物館 ・主 催 韓国国立中央博物館、東京国立博物館、中国国家博物館 ・作品件数 104件 ・来館者数 34,050人 本展覧会は、日本、韓国、中国の3つの国の国立博物館が合同で実施する第3回目の国際共同企画展である。今回は東アジア全域で好まれた「虎」をテーマに、3館が所蔵する絵画や工芸作品の代表作例を一堂に展示した。日本は東京国立博物館、中国は国家博物館の所蔵品を出品し、韓国は国立中央博物館を中心に、国立慶州博物館、三星美術館リウムほか韓国国内の博物館・美術館の所蔵品を展示した。									
【補足事項】									
									
会場風景					開会式				
【定量的評価】項目		29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28
来館者数		34,050人	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 本展覧会は、日本、韓国、中国の3つの国の国立博物館が合同で実施する第3回目の国際共同企画展である。今回は、韓国国立中央博物館を会場に、東アジア全域で好まれた「虎」をテーマに展示した。日本は東京国立博物館、韓国は国立中央博物館、中国は国家博物館を中心とした博物館の所蔵品を展示し、各国の美術の独自性と共通性を示すことができた。原稿の執筆や作品の集荷、輸送、展示、撤収、返却を上海博物館と連携して計画的に効率よく進めることができた。							
【中期計画記載事項】 海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 重要文化財1件を含む30件の作品を出品し、日本におけるトラの表現を示したばかりでなく、日本美術の独自性を示すことができた。32年度には当館において、本展覧会と同じく3館共同での特別展開催を予定している。							

【書式A】		施設名		東京国立博物館		処理番号		1231A-1									
中項目		1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信															
事業名		(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 1)快適な観覧環境の提供 1/2															
【年度計画】 (4館共通)		ア 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。 イ 館内の施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。 ウ 平常展及び特別展における、題箋及び解説等並びに音声ガイドについて、4言語（日・英・中・韓）化を推進する。 (東京国立博物館) ア 多言語による案内及び誘導サイン等を順次整備する。また、本館改修に向けてサイン計画を策定する。 イ より快適な観覧環境を構築するため、展示照明を順次整備する。															
担当部課		総務部総務課 総務部環境整備課 学芸企画部企画課 学芸企画部企画課			事業責任者		課長 竹之内勝典 課長 若林賢一 特別展室長 丸山士郎 デザイン室長 木下史青										
【実績・成果】 (4館共通)		ア 当館開催の特別展のうち、7つの特別展で音声ガイドを実施し、来館者サービスの向上を図った。 イ 出入口スロープの設置、障がい者用トイレの設置は既に完了し、屋外のトイレ等について関係法令に基づく整備計画案策定と設計積算に掛かる費用の算定を行った。 ウ ・平常展及び特別展において、題箋及び解説等全てに英語・中国語・韓国語を付した。 ・平常展の展示テーマ数137件(100%)について引き続き外国語パネルの設置を実施している。英語、中国語、韓国語での解説整備がすでに進捗しているところであるが、29年度も一部パネルの中国語、韓国語の解説を新たに付した。 ・平常展の音声ガイドを英語・中国語・韓国語で作成し、正門施設内にて貸出しを実施している。加えて、館内各所において音声ガイドの案内板を掲出するなど、外国人の利用促進を図っている。 (東京国立博物館) ア 庭園の茶室等の誘導サイン等（解説サイン含む）について、多言語化（2言語→4言語）を行った。 イ 庭園開放時のお花見ライトアップ用の照明器具について、追加補充した。(屋外用ｽﾌﾟﾗｲﾄ付LEDｽﾌﾟﾗｲﾄ×16台)															
【補足事項】																	
【定量的評価】項目		29年度実績		目標値		評定		経年変化		25		26		27		28	
音声ガイド貸出台数		282,187台		—		—				154,056		261,241		223,331		177,522	
【年度計画に対する総合評価】 評定：B				【判定根拠、課題と対応】 庭園の茶室等をはじめ、展示室以外の誘導サイン等においても、4言語による多言語化を実施し、来館者サービスの向上を図った。引き続き、様々な来館者のニーズに即した案内及び誘導サイン等の改善を実施する。また、本館改修に向けて国内外の優れたサイン表示を実行している施設を視察し、当館の特色を活かしたサイン計画に基づく案内板の設置を行った。 また、夜間開館の充実と併せて、より快適な観覧環境を構築するために、展示照明や展示施設周辺の照明器具の充実を図った。													
【中期計画記載事項】 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。																	
【中期計画に対する評価】 評定：B				【判定根拠、課題と対応】 国内外の博物館・美術館の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化等の取り組みを調査するとともに、来館者のアンケート調査を活用し、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用に配慮したきめ細やかな取り組みを実行している。今後も、現行の取り組みを検証し、時代に即した快適な観覧環境の提供を実施する。													

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 1)快適な観覧環境の提供 2/2							
【年度計画】 (東京国立博物館) ウ 総合文化展におけるスマートフォンアプリを用いたガイド「トーハクナビ」(日本語版・英語版)を引き続き実施する。中国語版、韓国語版については、音声ガイドを充実させ、「トーハクナビ」の端末とともに貸出しサービスを継続する。 エ 講座・講演会の会場へのヒアリンググループの設置、音声認識ソフトのサービスの開始、ユニバーサルデザインの触知図による対応の継続など、障がい者のための環境整備を充実させる。 オ 「総合案内パンフレット」(7言語(8種):日、英、中(簡体字・繁体字)、韓、仏、独、西)を制作・配布する。 カ 本館2階「日本美術の流れ」の展示を外国人も理解できるように、より基礎的な解説を盛り込んだ、3言語(英、中、韓)のパンフレットを継続して制作・配布する。 キ 育児中の来館者が快適に観覧できるよう託児サービスを提供する。								
担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課 学芸企画部広報室			事業責任者	課長 竹之内勝典 教育普及室長 藤田千織 室長 鬼頭智美			
【実績・成果】 (東京国立博物館) ウ アプリ「トーハクナビ」、「法隆寺宝物館30分ナビ」を継続して提供した。また、「トーハクナビ」のログ解析を継続し、利用者の使用動向の調査・研究を行った。さらに、来館者への貸出サービスとして、日本語・英語は「トーハクナビ」の端末を、中国語・韓国語はアプリのコンテンツの一部を翻訳し、インストールした音声ガイド端末の貸出を行った。 エ ユニバーサルデザインの触知図の設置、ギャラリートーク、講演会会場へのヒアリンググループの設置や音声認識ソフトによるコミュニケーション支援・会話の見える化アプリ(UDトーク)の導入など、障がい者のための環境整備を実施した。 オ 「総合案内パンフレット」(7言語(8種):日151,000部、英85,000部、中(簡体字20,000部・繁体字10,000部)、韓47,000部、仏14,000部、独9,000部、西9,000部)を制作・配布した。 カ 本館2階「日本美術の流れ」の3言語(英語・中国語・韓国語)のパンフレットを継続して制作・配布した。 キ 育児中の来館者が快適かつ安心して観覧できるよう託児サービスを提供した。併せて、利用者の意見を聴取し、託児室の備品を充実させた。特に、キッズデー開催時(7月30日)には、託児受け入れ時間の拡大と当日受付を実施し、サービスの拡充を図った。								
【補足事項】 (東京国立博物館) ウ 各アプリの29年度のダウンロード件数および貸出件数は以下の通りである。 ・Android版「トーハクナビ」3,411件(累計16,556件、24年4月18日公開) ・iOS版「トーハクナビ」13,477件(累計37,034件、25年9月26日公開) ・iOSアプリ「法隆寺宝物館30分ナビ」3,475件(累計28,091件、23年1月20日公開) ・貸出件数 22,099件(累計41,569件)(日英中韓の総計)								
								
アプリ端末・音声ガイド貸出サービス窓口正門プラザ								
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価:B	【判定根拠、課題と対応】 公開中のアプリ「トーハクナビ」、「法隆寺宝物館30分ナビ」はそれぞれ16,888件、3,475件のダウンロード実績をあげた。貸出サービスにおいては、アプリ端末および音声ガイド端末合わせて年間22,099件貸出した。加えて、障がい者のための環境整備、7言語の「総合案内パンフレット」の制作・配布、3言語の「日本美術の流れ」のパンフレット制作・配布、託児サービスの提供等、年度計画は順調に達成されている。一方で、貸出サービスでのメディアや内容が日英と中韓で異なる点など、来館者サービスの面で課題がある。							
【中期計画記載事項】 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。								
【中期計画に対する評価】 評価:B	【判定根拠、課題と対応】 パンフレットの制作・配布、ガイドアプリの公開・貸出による多言語化、聴覚障がい者向けの設備の充実、託児サービスやキッズデーによる子ども連れの来館者への配慮など、一定の成果はあげているが、まだまだ対応は不十分といえる。引き続き幅広い来館者の利用に配慮した快適な観覧環境の提供のための施策を推進したい。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 1) 快適な観覧環境の提供								
【年度計画】 (4館共通) ア 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。 イ 館内の施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。 ウ 平常展及び特別展における、題箋及び解説等並びに音声ガイドについて、4言語(日・英・中・韓)化を推進する。 (京都国立博物館) ア 明治古都館改修に伴い、平常展示館として計画された平成知新館において特別展覧会も開催するための観覧環境を整備する。 イ 館内案内リーフレット(6言語:日、英、中、韓、仏、西)を継続して配布する。 ウ 平常展(名品ギャラリー)において、音声ガイド(4言語:日、英、中、韓)を継続して活用し、来館者に対するサービスの向上を図る。 エ デジタルサイネージを活用し、効果的な情報発信を図る。									
担当部課	総務課 学芸部			事業責任者	課長 数馬厚人 企画室長 伊藤信二				
【実績・成果】 (4館共通) ア 特別展覧会において音声ガイドを活用した情報発信を行った。また、29年度からは4言語(日、英、中、韓)の4言語で行った。 イ トイレの誤った使用方法が散見されたことから、外国人にも分かりやすいようピクトグラムのサインを増やし、使用方法の周知を図った。 ウ 音声ガイドについては4言語で行い、題箋及び解説等で対応できていなかった中国語、韓国語については展示室内に掲出されている英語と同様の情報を出品一覧で配布した。 (京都国立博物館) ア ・彫刻展示室にてスポット照明を増設するなど、特別展などの展示計画に柔軟に対応できるよう観覧環境を整備した。また、特別展の際に用いる屋外サイン等を整備した。 ・明治古都館の改修に先立ち、閉館中も有効活用ができるように中央ホール及び周辺諸室の安全対策工事を実施した。 イ 館内案内リーフレットを継続して配布し、30年3月より中国語(繁体字)、ドイツ語を追加した。 ウ 平常展(名品ギャラリー)においても音声ガイド(4言語:日、英、中、韓)を継続して行った。 エ デジタルサイネージを活用し効果的な情報発信を行った。									
【補足事項】 (京都国立博物館) ア ・工芸等の作品で使用する展示ケース内下部LEDスポット照明の追加製造を行った。 ・3階考古・陶磁展示室に追加上部照明のための配線ダクトの整備、上部照明の購入を行った。 ・出入口誘導等、動線をわかりやすくするための誘導サインを製作した。 ・屋外の休憩ブースとして使用するためのベンチを購入した。 ウ 音声ガイド利用台数 計128,728台 ・特別展覧会「海北友松」(4言語:日、英、中、韓) 24,699台 ・特別展覧会「国宝」(4言語:日、英、中、韓) 94,052台 ・名品ギャラリー(4言語:日、英、中、韓)9,977台									
【定量的評価】項目		29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28
音声ガイド貸出回数		128,728台	-	-		17,202	76,671	109,167	36,584
【年度計画に対する総合評価】 評価: B			【判定根拠、課題と対応】 明治古都館閉館中も有効活用ができるように中央ホール及び周辺諸室の安全対策工事が完了した。 29年度は題箋及び解説等並びに音声ガイドの4言語対応を進め、また、館内サインや展示環境の整備を行い、観覧環境の向上に資する取組を充分に行うことができた。更には、当初の計画に加えて、館内案内リーフレットの対応言語を増やすことができた。						
【中期計画記載事項】 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。									
【中期計画に対する評価】 評価: B			【判定根拠、課題と対応】 明治古都館の安全対策を実施し、来館者の利用に配慮した安全な環境の提供を行った。 28年度に引き続き、快適な観覧環境の提供を行うために、多言語化対応の整備を進め、館内サイン、展示環境の整備を行い、中期計画2年目として順調に進捗することができた。30年度は特別展「京のかたな」の混雑が予想されるため、29年度の整備成果を活かし、引き続き快適な観覧環境の提供に努めたい。						



整備したサインの一部

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 1) 快適な観覧環境の提供							
【年度計画】 (4館共通) ア 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。 イ 館内の施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。 ウ 平常展及び特別展における、題箋および解説並びに音声ガイドについて、4言語(日・英・中・韓)化を促進する。(奈良国立博物館) ア 快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を行う。 イ 誘導サイン等の一層の整備を図り、より快適な観覧環境を確保する。 ウ 正倉院展の際に託児室を設置するとともに、混雑状況・待ち時間の速報を行う。 エ 館内案内リーフレット(7言語:日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作する。 オ 多言語による案内について充実を図る。								
担当部課	総務課			事業責任者	課長 室溪 浩			
【実績・成果】 (4館共通) ア 特別展において音声ガイドの4言語(日・英・中・韓)化を実現した。 イ サイン検討会議を開催し、現状サインの問題点を把握しつつ、今後あるべき姿としてのサイン計画立案を進めた。 ウ なら仏像館において音声ガイドの4言語(日・英・中・韓)化を実現した。特別展では、章解説及び作品名を4言語化、正倉院展では、会場内の説明文を全て4言語化した。(奈良国立博物館) ア ・館内の適正な温度維持管理を行うため熱源設備の一部更新を実施した。 ・快適な観覧環境を提供するため展示ケースの新調を進めた。 ・来館者の利便性を高めるため館内の地下廻廊にWi-fiを整備した。 イ 誘導サイン及び展示照明を整備し、より快適な観覧環境を提供した。 ウ 正倉院展の会期中に無料託児室を開設し、保育士2名が常駐して1歳児から未就学児までの預かりを実施した。また、当館Webサイト及び当館敷地内の掲示にて混雑状況及び待ち時間の速報を行った。 エ 館内案内リーフレット(7言語:日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作した。 オ 総合案内に外国語(英語、中国語)対応のできるスタッフを常時配置し、外国人来館者への対応の充実を図った。								
【補足事項】 (4館共通) イ 一目で認識できるようピクトグラムによる案内表示を併せて行った。 ウ なら仏像館の音声ガイドは、28年度から提供を開始した英・中・韓に加え、29年10月から来館者の要望に応え日本語版を導入した。(奈良国立博物館) イ 正倉院展の会期中には、臨時の誘導サインを増設し、より快適な観覧環境を提供した。 ウ 正倉院展の会期中の無料託児室の利用者数120名の利用があった。								
ピクトグラムによる案内表示 無料託児室								
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28
音声ガイド貸出回数	63,751台	-	-		46,953	55,466	49,546	42,210
【年度計画に対する総合評価】 評価: B		【判定根拠、課題と対応】 平常展、特別展ともに音声ガイドと題箋、パネル等で多言語化を進めた。特に29年度は特別展、正倉院展において音声ガイドの4言語(日・英・中・韓)化を実現し、なら仏像館での名品展「珠玉の仏たち」では、要望にこたえ、日本語版の音声ガイドを新たに導入した。混雑が予想される展覧会においては、誘導サインの増設や待ち時間の速報を行うことで解消を図り、快適な観覧環境の維持に努めた。						
【中期計画記載事項】 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。								
【中期計画に対する評価】 評価: B		【判定根拠、課題と対応】 館内における多言語化を常に意識し、英語以外の言語にも対応を進めている。また、4言語以外を母国語とする来館者が認識できるようピクトグラムによる案内も進めている。30年度も特別展での音声ガイドの4言語(日・英・中・韓)対応を実施予定であり、更なる充実を図る。以上のことから中期計画にある快適な観覧環境の提供について順調に進んでいる。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 1)快適な観覧環境の提供							
【年度計画】 (4館共通) ア 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。 イ 館内の施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。 ウ 平常展及び特別展における、題箋及び解説並びに音声ガイドについて、4言語(日・英・中・韓)化を推進する。 (九州国立博物館) ア 快適な観覧環境を提供するためサインや照明などの空間デザインを工夫し、満足度の高い展示の実現を目指す。 イ 展示室のカレンダーを見やすいものに更新し、分かり易い情報発信に努める。 ウ 館内案内リーフレット(7言語:日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作する。 エ 新しい音声ガイドシステムならびに解説システムの導入に向けて検討を進める。 オ スーパーハイビジョンシアターの多言語化を進める。								
担当部課	学芸部企画課 展示課 総務課			事業責任者	課長(兼学芸部長) 小泉恵英 課長 楠井隆志 課長 菅原秀倫			
【実績・成果】 (4館共通) ア 特別展において、日英中韓の音声ガイドを貸出し、国内外の来館者に対するサービスの向上を図った。 イ 総合案内所での車イスやベビーカーの貸出、案内等の多言語化表記など、館内の施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進した。 ウ 特別展における、題箋及び解説並びに音声ガイドについて、完全4言語(日・英・中・韓)化を実施した。平常展における題箋及び解説について、4言語(日・英・中・韓)化を推進し、内容の充実に努めた。 (九州国立博物館) ア 展示作品が良く映え、かつ展示テーマやストーリーが明確になるよう、ケース配置やサイン、照明などを工夫し、来館者にとって分かりやすく、満足度の高い展示を目指した。 イ 文化交流展特別展示のサインや案内を展示室外の館内各所に設置し、開催認知度の向上と観覧者の増加に努めた。季刊情報誌『アジアージュ』における平常展の内容紹介を強化した。 ウ 館内案内リーフレット(7言語:日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作・配布した。 エ 平常展の音声ガイドコンテンツ(3言語:英、中、韓)の内容更新と日本語解説コンテンツの新規制作を実施するとともに機器の更新を行った。また、現行音声ガイドに替わる将来の新解説システムの検討を進めた。 オ 日本語のみで提供していたスーパーハイビジョンシアターについて、上映番組(7番組)の多言語化(3言語:英、中、韓)のナレーションを作成し、映像と同期させて個別のヘッドホンで聞く方法を採用し、30年度から運用する準備が整った。								
【補足事項】 ア これまで「トピック展示」と称していた期間限定のテーマ展示を「特別展示」と改称し、対外的に特別感をアピールして広報に努めた。 イ 特別展示への観覧者増を目指し、1階エントランスホール内に巨大な特別展示のパナーを掲示し、入館者に対する特別展示開催の視認性を高めた。 ウ 文化交流展音声ガイドの英・中・韓のコンテンツ制作46件、日本語コンテンツ制作46件(新規)。30年度4月末に提供開始予定。					 1階エントランスホールの巨大パナー(「六郷満山展」)			
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28
音声ガイド貸出台数	52,425台	-	-		55,611	67,665	70,955	98,845
【年度計画に対する総合評価】 評価:B		【判定根拠、課題と対応】 題箋及び解説、音声ガイド、スーパーハイビジョンシアターの完全4言語(日・英・中・韓)化に向けてさまざまな取り組みを実施、推進した。また、開館以来要望の高かった文化交流展示室の日本語音声ガイドコンテンツの制作を実施し、30年度の早い段階での導入に目途が立った。引き続き、観覧者の満足度のさらなる向上を目指し、改善に努めてゆく。						
【中期計画記載事項】 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。								
【中期計画に対する評価】 評価:B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画の達成に向けて順調に推移している。なかでも展示室内における多言語化は大きく推進できた。引き続き、関係部署との連絡調整を行い、来館者サービスの向上と観覧環境の快適性を今以上に高めていきたい。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等								
【年度計画】 (4館共通) ア 展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。 イ ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。 ウ 年間を通じて、特別展も含めた夜間開館の拡充を実施する。 エ 夜間開館の拡充に合わせて、来館者の夜間開館に対するニーズを把握するために、夜間開館時にアンケート調査を実施する。 (東京国立博物館) ア 特別展等に合わせて軽食販売を行う等、サービスの向上に努める。									
担当部課	総務部総務課			事業責任者	課長 竹之内勝典				
【実績・成果】 (4館共通) ア 年間を通じた総合文化展と特別展のアンケート調査に加えて、特別展毎に日本人と外国人それぞれに対するアンケート調査を実施し、調査の結果を館内及びミュージアムショップやレストラン等の委託業者と共有した上で、適切な改善を図った。 イ ミュージアムショップやレストランにおいては、アンケート等による利用者の意見把握に努め、運営業者との定例会を通じて、サービス向上に努めた。ミュージアムショップでは、来館者属性の変化に応じて、若年層や外国人向けの商品開発も進めている。 ウ 年間を通じて、特別展も含めて、金曜日・土曜日は21時まで開館するなど夜間開館の拡充を図った。併せて、ポスターやチラシを作成するなど、周知に努めた。 エ 特別展毎に、夜間開館に関するアンケートを実施し、アンケート調査の結果を関係者と共有するとともに、夜間開館実施に反映した。 (東京国立博物館) ア 特別展毎に休憩スペースにおいて軽食販売を行うとともに、敷地内にてキッチンカーによる軽食販売を実施し、サービスの向上に努めた。									
【補足事項】 東京国立博物館の広報大使である公式キャラクター「トーハクくん・ユリノキちゃん」を使用したノベルティグッズについて、コースター・ピンバッチ・シール等を作成し、レストランでの給仕時や会議・接遇時に使用するなどキャラクターを活かした商品開発を行った。また、人気商品のはにわグッズについても、新たにネクタイ・バック等のラインナップを追加した。利用者のアンケート調査の結果を反映し、食品(和三盆干菓子(見返り美人図、風神雷神図屏風パッケージ))や文具(八橋蒔絵螺鈿硯箱缶入りメモパッドセット)など手に取りやすい商品の企画を進めるとともに、増加する外国人来館者に対応する免税手続きや海外への商品発送など、新たなサービス向上を検討している。									
【定量的評価】項目		29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
観覧環境に関する来館者アンケート満足度		68.1%	80%超	C		-	-	-	70.4
多言語表記に関する外国人アンケート満足度		74.8%	-	-		-	-	-	69.7
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 ミュージアムショップやレストランに対する来館者のニーズをアンケート調査等により把握し、展示活動と同様に観覧環境のより一層の向上を図る。特に、ミュージアショップでは、博物館の特色を活かした廉価な商品を開発することで、小中学生が手に取りやすく、記念の品ともなるよう、他業種のコンテンツを継続的に調査・分析する。また、レストランでは、展覧会との親和性、待ち時間や単価設定の部分で更なる改善を図り、利用したくなる運営を実施する。混雑時の休憩スペースの効果的な運営方法や軽食販売の在り方など、引き続き来館者サービスの充実を図る。							
【中期計画記載事項】 来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランとサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が80%を超えることを目指す。									
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 複数の来館者アンケート調査の結果、専門家の批評やSNS等による意見を基に、定例会や日常的な事業の中でミュージアムショップやレストランと情報を共有し、恒常的なサービス向上に取り組んでいる。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信									
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等									
【年度計画】 (4館共通) ア 展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。 イ ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。 ウ 年間を通じて、特別展も含めた夜間開館の拡充を実施する。 エ 夜間開館の拡充に合わせて、来館者の夜間開館に対するニーズを把握するために、夜間開館時にアンケート調査を実施する。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) ア 特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。 (京都国立博物館) ア アンケート等の意見を参考にミュージアムショップ及びレストランのサービス向上に努める。										
担当部課	総務課 学芸部		事業責任者		総務課長 数馬厚人 企画室長 伊藤信二					
【実績・成果】 (4館共通) ア 来館者アンケートを実施した。また、日本語・英語でのアンケートに加え、中国語、韓国語のアンケートを開始した。 イ オリジナルグッズ開発及び展覧会に応じた関連商品等を取りそろえ、レストランでは館限定のオリジナルメニューを提供した。 ウ 平常展及び特別展の金曜日、土曜日にて午後8時まで夜間開館を実施した。なお、7～9月は午後9時まで夜間開館を延長した。 エ 夜間開館時に来館者アンケートを実施した。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) ア 『博物館だより196号』にて妙心寺塔頭隣華院 脇坂玄淳氏による特別展覧会「海北友松」の展覧会評を掲載した。 (京都国立博物館) ア アンケートの意見等を受け、ショップ及びレストランに接客対応改善の連絡や新規企画の提案を行った。										
【補足事項】 (4館共通) イ ・ショップと協力し、当館のロゴ入りグッズ等を開発した。 ・レストランと協力し、公式キャラクター「トラりん」をモチーフとしたパフェの提供等を行った。 (京都国立博物館) ア 国宝展期間中、庭園での飲料提供の要望に応え、レストランと協議し喫茶ブースを設置した。										
										
ロゴトート			トラりんティラミスパフェ			国宝展 庭園喫茶ブースの風景				
【定量的評価】項目			29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
観覧環境に関する来館者アンケート満足度			63.4%	80%超	D	-	-	-	-	40.2
多言語表記に関する外国人アンケート満足度			73.5%	-	-	-	-	-	-	69.3
【年度計画に対する総合評価】 評定：C			【判定根拠、課題と対応】 観覧環境に関するアンケート満足度が目標値を下回った。理由として、文化財保護のための空調・照明管理に関する来館者への周知不足や部分開館を行っていたことなどが考えられる。サイン等での周知を行うための什器を購入し、積極的な周知を心がけていきたい。 また、オリジナルグッズの開発や、契約の変わったカフェによる限定メニューの販売も行っていることやアンケートの言語を拡充したことなど、観覧環境の改善を進めている。							
【中期計画記載事項】 来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が80%を超えることを目指す。										
【中期計画に対する評価】 評定：C			【判定根拠、課題と対応】 中期計画2年目として観覧環境の改善を引き続き進めることができた。また、アンケートの言語も拡充したことにより、今後は多言語対応に関する改善も図っていく。さらには夜間開館についても引き続き実施し、来館者に配慮した運営を心がけていく。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 2)来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等								
【年度計画】 (4館共通) ア 展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。 イ ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。 ウ 年間を通じて、特別展も含めた夜間開館の拡充を実施する。 エ 夜間開館の拡充に合わせて、来館者の夜間開館に対するニーズを把握するために、夜間開館時にアンケート調査を実施する。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) ア 特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。 (奈良国立博物館) ア アンケート等の意見を参考にレストランメニューの改善や工夫に努める。 イ ミュージアムショップにおいて展覧会関連グッズの開発や仏教美術に関する図書の充実を図る。									
担当部課	総務課		事業責任者	課長 室溪浩					
【実績・成果】 (4館共通) ア 展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する対面回収による来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、その結果を改善に活かした。 イ ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、新たなオリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品や従来品をリニューアルするなど、サービス向上に努めた。 ウ 平常展及び特別展において毎金曜日・土曜日の夜間開館を実施したほか、「なら燈火会」や「なら瑠璃絵」など周辺行事等に合わせて弾力的に開館時間を延長した。 エ 夜間開館の拡充に合わせて、来館者の夜間開館に対するニーズを把握するために、夜間開館時にアンケート調査を実施した。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) ア 当館刊行の『奈良国立博物館だより』102号(7月刊行)に以下の展覧会評を掲載した。 東北大学大学院文学研究科教授・長岡龍作氏「展示評 特別展『快慶 日本人を魅了した仏のかたち』展に寄せて」 (奈良国立博物館) ア アンケート等の意見を参考にレストランメニューの改善や工夫に努め、また、敷地内にリニューアルした移動販売車を導入し観覧者へのサービス及び館内への誘引を図った。 イ ミュージアムショップにおいて展覧会関連グッズの開発や仏教美術に関する図書の充実を図った。									
【補足事項】 (奈良国立博物館) イ 堅苦しくなりがちな仏像をかわいらしくデザインし、手を上げている、走っている等の仏像の動きをポップなカラーで表現した「元気が出る仏像シリーズ」や正倉院模様の手ぬぐい等のオリジナルグッズをミュージアムショップで販売した。									
元気が出る仏像シリーズ 「仏像をかわいらしくデザイン・クリップ」						 正倉院模様グッズ 「手ぬぐい・コースター (羊木縹縹屏風)」			
【定量的評価】項目		29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28
観覧環境に関する来館者アンケート満足度		70.5%	80%超	C	-	-	-	-	68.0
多言語表記に関する外国人アンケート満足度		69.7%	-	-	-	-	-	-	67.7
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 観覧環境は、秋の正倉院展以外は、名品展を含め満足度が高かった。アンケートによって、多言語表記についてはキャプション、リーフレット等の記載に関し十分であるとの意見が多々得られたが、会場解説が難解だという意見もあり、満足度は目標値に至らなかった。今後もアンケートの意見等を参考にし、多言語化、解説文の改善・充実など、満足度の向上に努める。							
【中期計画記載事項】 来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が80%を超えることを目指す。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 来館者対象のアンケートは通年の設置式に加え、29年度は一つの特別展と二つの特別陳列の開催時期に対面回収によるアンケートを実施し、回収率を上げることで意見の聴取に努めた。またアンケートの意見は、館内で共有し逐次の対応を行うとともに、ミュージアムショップ及びレストランに係る内容については回報し館全体で改善に取り組んだ。以上のことから中期計画期間中の改善は順調に行われた。29年度の観覧環境に関する満足度については、目標値を下回ったので30年度の課題としたい。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 2) 来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等								
【年度計画】 (4館共通) ア 展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。 イ ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。 ウ 年間を通じて、特別展も含めた夜間開館の拡充を実施する。 エ 夜間開館の拡充に合わせて、来館者の夜間開館に対するニーズを把握するために、夜間開館時にアンケート調査を実施する。 (九州国立博物館) ア レストラン利用者にアンケート調査を行い、サービス向上に努める。 イ アンテナショップ「九州国立博物館ミュージアムショップ参道」での情報発信、オリジナルグッズの提供に努める。									
担当部課	学芸部企画課 展示課 広報課 総務課			事業責任者	課長(兼学芸部長) 小泉恵英 課長 楠井隆志 課長 田中正一 課長 菅原秀倫				
【実績・成果】 (4館共通) ア 展覧事業、観覧環境等に関する来館者アンケートを2言語(日本語・英語)で継続的に実施し、観覧環境やサービスの改善に努めた。 イ 当館オリジナルグッズ開発のため、館内で設置したワーキンググループを開催、新たな商品開発に向けての検討を行った。 ウ 4月28日から毎週金曜日及び土曜日は午後8時までの夜間開館を開始し、それ以外の曜日においても太宰府天満宮のイベントに合わせて臨時の夜間開館を実施した。 エ 夜間開館の開始に合わせて、来館者の夜間開館に対するニーズを把握するために、夜間開館時にアンケート調査を実施した。(5、6、8、9、10、11月) (九州国立博物館) ア レストラン利用者を対象とするアンケート調査を実施し、サービス向上に努めた。 イ アンテナショップ「九州国立博物館ミュージアムショップ参道」では、館内ショップでは取り扱わないオリジナル商品を販売するほか、特別展にあわせてバナーを店頭に掲出し、告知に努めた。									
【補足事項】 (4館共通) エ 夜間開館来館者へのアンケート結果では、来館者の満足度は高い結果となっている。(96.8%)									
夜間開館オープニングセレモニーの様子									
【定量的評価】項目		29年度実績	目標値	評定	経年変化	25	26	27	28
観覧環境に関する来館者アンケート満足度		63.7%	80%超	C	-	-	-	-	77.2
多言語表記に関する外国人アンケート満足度		84.6%	-	-	-	-	-	-	78.8
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 夜間開館の実施に併せて、ミュージアムショップおよびカフェを夜間開館時間に合わせて営業した。また、アンテナショップが情報発信基地として機能した。計画のとおり、サービス向上に寄与することができた。							
【中期計画記載事項】 来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が80%を超えることを目指す。									
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 「夜の博物館たんけん隊」や体験型の「ミュージアムトーク」など多彩なイベントを実施することにより、夜間開館の認知度も浸透しつつあり、夜間開館アンケートにおいては、90%以上の来館者の満足度が高い結果となった。また、夜間開館日には来館者数が1割以上増え、入館者の増加につながっている。今後は、一層の内容充実と効果的な広報に努め、更なる来館者数の増加を図っていきたい。また、オリジナルグッズを所蔵品の広報ツールとして引き続き活用していく予定である。カフェだけでなく、レストランについても、今後、イベントとの連携や来館者増に努めることで夜間開館時間の営業ができるよう努めたい。							